冒ストモ、仁川ニ上陸セシメタシト云フニアリ、然レトモ果シテ仁川ニ上陸セシメ得ルヤ否ヤ、豫測シ難キヲ以テ、東郷聯合艦隊司令長官ハ、先ツ暫ク其ノ提言ノ如ク之ヲ牙山ト定メ置キ、實際其ノ時ニ臨ミ、機會ノ許ス限リ、仁川ニ變更スルコトニ決定セリ、幾モナク時局急迫シタルヲ以テ、陸軍大臣ハ二月四日午後九時井上第十二師團長ニ命令ヲ下シ、豫テ交附シアル訓令ヲ開封シ、之ヲ韓國臨時派遣隊司令官陸軍少將木越安綱(歩兵第十二旅團長)ニ傳ヘシム、是ニ於テ同隊ハ命令ヲ受領シテヨリ九時間後汽車輸送ヲ開始シテ、五日午後六時十分迄ニ、相前後シテ悉皆早岐停車場ニ著シ、同町北方ノ埠頭附近ヨリ逐次通船ニ乘シ、大連丸及ヒ小樽丸ニ乘船シ、同日正子結了シ、以上二船及ヒ平壤丸ハ、六日午後二時第四戰隊ト共ニ出港スルニ至レリ、其ノ部隊及ヒ配船左ノ如シ、

船名	部隊號	將官	佐官	將官同相當官 准士官	下士卒	馬丁	計	乘馬	貨物
大連丸	歩兵第二三旅團司令部	一							
	歩兵第二四聯隊ノ一大隊		一	一八	五三九	三		三	一三駄
	歩兵第四六聯隊ノ二大隊			一	一八	五三九	三	三	一三駄
小樽丸	歩兵第一四聯隊ノ一中隊				四	一三三			
	歩兵第一四聯隊ノ一大隊 一中隊欠			一	一四	四〇六	三	三	一三駄
	歩兵第四七聯隊ノ三大隊			一	一八	五三九	三	三	一三駄
合計		一	四	七三	二一五九	一五	二二五二	一六	五三駄

備考 旅團司令部及ヒ各大隊下士卒ニハ通譯一名ヲ含有シアリ

第二章　陸軍韓國臨時派遣隊ノ上陸掩護及ヒ仁川沖海戰

第一節　第四戰隊ノ出發

韓國仁川方面ノ敵ニ對シテ作戰シ、且陸軍臨時派遣隊ノ上陸ヲ掩護スヘキ命ヲ受ケタル瓜生第二艦隊司令官ハ、其ノ麾下ノ戰隊ヲ率ヰ、運送船ヲ護衛シテ佐世保軍港ヲ出發スルニ先ンシ、豫メ左ノ命令ヲ發シテ將ニ採ラントスル行動ヲ明示セリ、

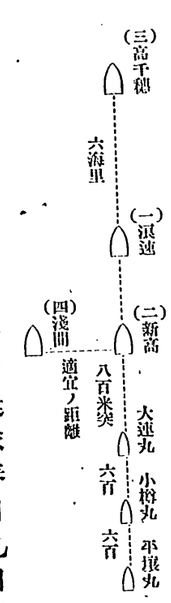
一、最近情報ニヨレハ仁川港ニハ目下露艦「ワリヤーグ」「コレーツ」二隻在泊

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

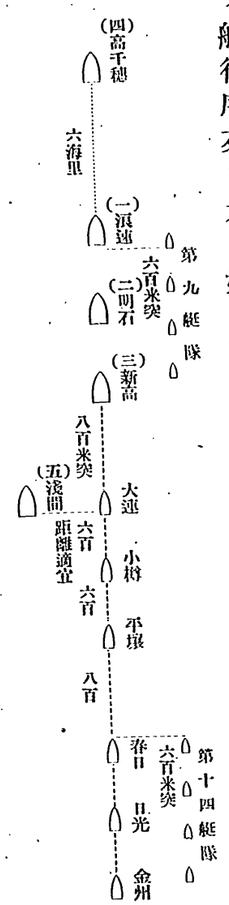
セリ在旅順ノ戰艦三隻ハ五日午後何レヘカ出港セリ

二、第四戰隊(明石欠)及ヒ淺間ハ聯隊機密第一二〇號聯合艦隊命令ニ依リ陸軍運送船ヲ護衛シテ六日午後二時佐世保ヲ出港シ七日午後明石及ヒ第九第十四艇隊春日丸日光丸金州丸ト合シ仁川港方面ニ向フ

三、佐世保出港時ヨリ七日午後シングル島ニ至ルマテノ航行序列ヲ左ノ如ク定ム



四、七日午後明石第九第十四艇隊春日丸日光丸金州丸本隊ニ合シタル後ノ航行序列ヲ左ノ如ク定ム



五、此ノ行動中速力ヲ左ノ如ク定ム

原速十節　微速四節

六、八日午前八時ノ各艦船艇隊ノ集合點ハ外ノベーカー附近トス

七、此ノ行動中夜間ニ於ル揭燈ハ特令ナキトキハ左ノ如クスヘシ但必要ニ應シ直ニ普通ノ航海燈ヲ出シ得ル如ク準備シ置クヘシ

(イ)高千穂、浪速、淺間ハ速力燈ノ外普通ノ航海燈ヲ揭揚ス

(ロ)新高、明石、大連丸、小樽丸、平壤丸、春日丸、日光丸、金州丸ハ兩舷燈、艦尾燈ヲ揭ケ汽燈ヲ揭ケス

八、シングル島ヨリベーカー島(外ノ)ニ至ル豫定航路ヲ北微東ト定ム

九、此ノ行動中敵ニ出會セルトキハ左ノ如クスヘシ

高千穂ハ回頭シ來リテ殿艦トナル

淺間ハ艦長ノ所信ヲ以テ自由ノ行動ヲ採リ本隊ト共ニ敵ニ當ル

水雷艇隊ハ本隊ノ非戰側ニ位置シ時機ヲ見テ襲擊スヘシ

春日丸、日光丸、金州丸ハ春日丸艦長ノ指揮下ニ便宜安全ノ行動ヲ採リ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

其ノ他ノ運送船ハ遠ク非戰側ニ戰ヲ避ケ時機ニ依リ全ク分離安全ノ行動ヲ採ルヘシ但可成先任監督將校ノ誘導ニ從フヘシ

十、此ノ行動中天候其ノ他異變ニ應スル會合點ヲ左ノ如ク定ム

七日第一集合地點　珍島南部接島ノ西方

八日第二集合地點　外ノベーカー島附近

但シングル島以北ニ於テ敵ニ會シ本隊ト分離シタル場合ニハ運送船隊ハ敵ノ耳目ヲ避ケ得ル限リ淺水海灣ニ避敵シ後命ヲ待チ九日以後ハ我カ主戰隊ノ牙山ニ至ルヲ待チテ之ニ會スヘシ

十一、此ノ行動中濃霧ニ遭フトキハ各隊ハ成ルヘク以前ノ速力ヲ變スルコトナク霧中航行法ニ準據シ前針路ヲ續航スヘシ但水雷艇隊ハ適宜ノ行動ヲ取リ會合點ニ至ルヘシ

十二、警戒航行ヲ令シタルトキハ艦隊艇隊ハ規定ノ警戒航行法ニ據リ淺間ハ航海燈ヲ掲ケ運送船隊ハ船尾燈ノミヲ掲クヘシ

十三、此ノ行動中無線電信ハ浪速、高千穗、淺間ノ外必要ノ場合ノ外使用スヘカラス

十四、ベーカー島附近ニ於テ千代田ニ會合シタル後ノ行動ハ千代田ノ齎セル情報ニ依リ策定ス（四戰機密第二六號）

斯クテ二月六日午後二時佐世保軍港ヲ出テ、薄暮志自岐鼻ヲ航過セントスル頃、瓜生司令官ハ其ノ麾下ノ艦隊ニ左ノ信號ヲナセリ、

今ヤ將ニ我カ故國ノ山水ヲ辭セントスルニ當リ、余ハ乘員一同ノ誠忠必ス克ク邦家ノ爲メニ偉功ヲ達スヘキヲ信シ茲ニ一同ノ健康ヲ祝ス、

此ノ日各艦臨戰準備ノ未タ盡サヽリシ所ヲ盡シ、合戰準備ヲ整ヘ、警戒ヲ嚴ニシ、隊形整然征途ニ上ル、翌七日午前十時韓國南岸九針岩ニ至レル頃、先發セル聯合艦隊司令長官旗艦三笠ヨリ電報アリ、我カ艦隊九針岩附近ニ於テ露國商船「ロシヤ」號ヲ拿捕スト、衆皆万歲ヲ呼フ、午後三時韓國南岸シングル水道ニ達シテ漂泊ス、先發諸隊皆既ニ此ニアリ、軍艦明石海底電信接續ノ任務ヲ了シ、韓國南西岸八口浦ヨリ來リテ第四戰隊ニ合シ、第九、第十四艇隊及ヒ假裝水雷母艦春日丸、艦隊附屬運送船金州丸モ亦來リテ瓜生司令官ノ麾

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

下ニ入ル、又假裝水雷母艦日光丸モ同處ニ於テ合スヘキ豫定ナリシカ、此ノ日早朝韓國南岸珍島ノ南方ニ於テ、驅逐隊ニ炭水ヲ補充スルノ際、驅逐艦曙ト衝突シテ之ヲ損傷セシメタルカ故ニ、其ノ保護ノタメ第一集合地點タル珍島南部接島ノ西方ニ殘留ス、而テ明石艦長ノ八口浦ニ於テ得タル情報ニヨレハ、前日夕景露國軍艦「ワリヤーグ」「コレーツ」ノ二隻尚依然仁川ニ碇泊セリト云フ、是ニ於テ瓜生司令官ハ戰隊命令ヲ發シテ敵情ニ應スル揚兵地點及ヒ其ノ他ノ行動ヲ豫定ス、其ノ命令ハ左ノ如シ、

一、シングル島發後第十四艇隊ハ命ニヨリ序列ヲ脫セハ適宜速力ヲ增加シ適當ノ位置ニ至リテ艇隊ヲ二分シ二月八日早朝牙山灣及ヒ皇子叢島附近ヲ偵察シ本隊ニ復命スヘシ途上本隊ニ警戒ヲ與フヘキコトアルモ夜間ハ本隊ニ接近セサルコトニ注意シ又仁川港濟物浦碇泊ノ艦船ニ艇影ヲ認メラルヽ程深入セサルコトニ注意スヘシ

二、四戰機密第二六號第四戰隊命令第四項ノ序列ヨリ日光丸ヲ除キ高千穗、浪速間ノ距離六浬ヲ三浬ニ改ム

三、二月八日午前八時軍艦千代田ニベーカー島附近ニ會合セサル場合ニ於テハ第九艇隊司令ニ濟物浦錨地偵察ヲ命ス該司令ハ其ノ麾下二艇ヲ率ヰ濟物浦泊地偵察ヲナシ本隊ニ復命スヘシ此ノ際該司令ハ港內ニ深入セス單ニ在泊艦船ノ在港ヲ明認復命スルヲ程度トス

四、二月八日午前八時本艦隊ベーカー島附近ニ於テ千代田ニ會セサルトキハ牙山灣口ニ進航ス

五、軍艦千代田若クハ第九艇隊司令ノ報告ヲ得左ノ如ク處置スルノ豫定ナリ

（イ）濟物浦錨地ニ敵艦ナキトキ

牙山灣口ヲ根據トシ高千穗、新高淺間ハ爰ニ假泊ス

水雷艇隊及ヒ春日丸、金州丸ハ牙山本隊根據地ニ來泊ス

明石ハ大連丸、小樽丸、平壤丸ヲ率ヰ濟物浦錨地ニ進入シ揚陸事業ヲ監督警戒シ其ノ用ヲ認メサルニ至ラハ本隊ニ歸來スヘシ但夜間ニ於テハ歸來セサルコトヽス運送船隊ハ濟物浦到著次第揚陸ヲ初メ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

陸揚ヲ終リタル運送船ハ監督將校ノ帶ヘル命令ニ依リ進退ス

(ロ)濟物浦錨地ニ敵艦アルトキ

明石ハ運送船隊ヲ率ヰ牙山灣ニ直航シ揚陸事業ヲ監督警戒シ其ノ用ヲ認メサルニ至ラハ本隊ニ歸來スヘシ

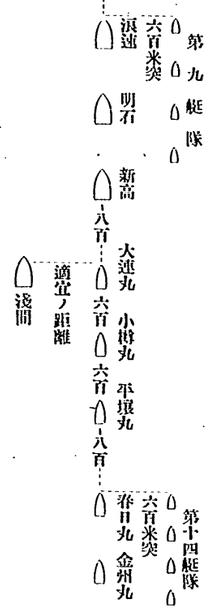
艦隊及ヒ特別任務ヲ命セラレサル艦船艇ハ牙山港口ヲ根據トシ假泊ス

(イ)(ロ)ノ兩場合ニ於テ高千穗ハボンデキ蔚島附近ニ在リテ警戒後命ヲ待ツ

六、七日夜ヨリ特命アル迄最必要ノ場合ニ非サレハ無線電信ノ通信ヲ爲サヽルコトニ注意スヘシ

七、二月六日午後六時濟物浦ノ狀況ハ以前ト異ナルコトナシ(四戰機密第二七號)

尋テ第四戰隊ハ午後四時三十分左ノ序列ヲ以テシングル島ヲ發進シ、豫定ノ針路ヲ航シテ韓國西岸ベーカー島ニ向フ、



第一戰隊以下諸隊モ亦旅順方面ニ向ヒテ進航ス、別ルヽニ臨ンテ東鄕聯合艦隊司令長官ハ左ノ信號ヲ揭グ、

豫メ成功ヲ祝ス、

斯クテ第四戰隊ハ同日黃昏韓國南西岸七發島外ヲ航過セントスル頃、先頭ニ立チタル高千穗、其ノ衝角ヲ以テ一大鯨ヲ衝ク、巨體爲メニ傷キ、鮮血奔出シテ海波ヲ掩フ、此ノ夜偶〻北西ノ軟風起リテ艇隊ノ航行稍困難ヲ覺エ、遂ニ第九艇隊ノ三艇本隊ト分離ス、是ニ於テ瓜生司令官ハ午後九時原速力ヲ八海里ニ減シ、明朝六時ヨリ全速力ノ蒸氣ヲ有ツヘキノ命ヲ發ス、

八日黎明ベーカー島ニ近ツクヤ、戰隊各艦ノ無線電信機ニ感應アリ、少焉アリテ其ノ發信艦ハ千代田ニシテ瓜生司令官ニ電報スルモノナルヲ知リ、艦隊ノ將卒擧リテ千代田ノ無事ナリシヲ慶賀ス、其ノ報スル所左ノ如シ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、本艦ハ昨夜十一時三十分仁川ヲ發ス、其ノ時港内ノ有樣異狀ナク、露國軍艦二隻ハ平然トシテ碇泊シ居レリ、

二、二月七日正午東京發軍令部長ヨリノ電報ニ依レハ、露國艦隊ノ主力ハ尙旅順口港外ニ在リ、

三、二月六日午後十一時四十分東京發海軍大臣ノ電報ニヨレハ、仁川港内ニ在リテハ各國軍艦碇泊シアルヲ以テ、露國軍艦ニ向ヒ我ヨリ對敵行爲ヲ爲スハ國際上穩ナラサルニ付之ヲ爲ス可ラス、又瓜生司令官ニ出會シタルトキハ此ノ電報ノ旨ヲ同官ニ傳達ス可シ、

四、七日午後十時受ケタル吉田海軍少佐ヨリノ電報ニヨレハ、京城ニ於ル治安及ヒ韓廷ノ關係上一日モ早ク我兵ノ入京ヲ必要トナスニ付、先發兵ハ成ル可ク仁川港ニ上陸セシメラレ度旨、伊地知陸軍少將ヨリ艦隊司令官ニ傳ヘラレ度シト、貴官ニ依賴アリタリ、又韓廷ニハ露國陸兵若干長串山附近ト想像セラルヽ地點ニ上陸セリトノ風說アリ、信用シ難キモ爲念報知スト、

五、釜山守備隊ヨリノ電報ニ依レハ、六日午後平遠、扶桑其ノ他ニテ露國商船二隻ヲ拿捕セリト、

六、昨七日佐世保八口浦間、嚴原巨濟島間電信開通ノ報ニ接ス、

幾モナクシテ一抹ノ煤煙ヲ前方ノ雲際ニ認ム、是卽チ軍艦千代田ニシテ、午前八時三十分ベーカー島側ニ到リ第四戰隊ト相合ス、瓜生司令官ハ之ニ命スルニ、仁川方面ニ於ル本作戰ノ終結ヲ見ルニ至ルマテ麾下ニ屬シテ行動スヘキヲ以テシ、更ニ前情報ヲ確メ、依テ以テ敵情ニ應スル作戰ヲ案シ、遂ニ仁川港頭ニ揚兵スルコトヲ決定セリ、

第二節　仁川港ノ狀況及ヒ軍艦千代田ノ行動

是ヨリ先キ軍艦千代田ハ明治三十六年五月ヨリ北清警備ノ任務ニ當リ、常ニ清國山東省芝罘ヲ中心トシテ、西ハ大沽ヨリ北ハ山海關、營口及ヒ大連灣其ノ他遼東半島沿岸ヲ巡航シ、時ニ或ハ山東省沿岸ヲ航シテ威海衛及ヒ膠州灣等ヲ訪ヒ、又屢炭水補充ノタメ韓國仁川港ニ至リ、一面居留民ノ保護ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

任スルト同時ニ、陸上ノ狀況視察ヲ遂ケ、且務メテ外國軍艦ト相來往シテ露國其ノ他列國海軍ノ動靜ニ留意スル所アリ、已ニシテ同年十二月ノ頃ニ至ルヤ、日露兩國ノ交渉切迫ヲ告ケ、韓國京城方面ニモ之カ爲メ不穩ノ狀ヲ呈シ、露國軍艦ノ仁川港ニ出入スルモノ頗ル繁キヲ加ヘ、韓國駐箚露國全權公使パウル、ミハイロウ非ッチ、イワノウ非ッチ、パブロフハ依テ以テ暗ニ韓國ノ上下ヲ威壓セリ、是ヲ以テ韓國警備ノ任ニアリシ軍艦濟遠モ亦屢仁川錨地ニ出入シ、獨リ暗ニ是ト相頡頏スル所アリシカ、偶韓國木浦ニ於ル我カ居留民ト韓人トノ間ニ紛擾ノ事アリシヲ以テ、之カ鎭撫ノタメ十二月中旬同港ニ赴キ、仁川附近ニ我カ軍艦ヲ見サルニ至リシカ故ニ、當時芝罘ニ碇泊セル軍艦千代田ハ兼テ韓國ノ警備ニ當ルヘキノ命ヲ受ケ、十二月十八日仁川港ニ回艦ス、幾モナクシテ形勢愈急迫シ、常備艦隊解散セラレテ聯合艦隊ノ編制成ルヤ、濟遠先ツ命ヲ受ケテ歸朝シ、其ノ他警備ノ任ニアリシ各方面ノ艦艇モ、亦逐次歸朝スルニ至リシヲ以テ、三十七年一月ニ入リテハ帝國軍艦ノ海外ニアルモノ僅ニ二隻ニ減シ、南清ニ在リテハ漢口ニ軍艦宇治アリ、北清及ヒ韓國方面ニ於テハ唯千代田アルノミトナレリ、加之其ノ當時京城及ヒ仁川方面ノ形勢益不穩ノ兆ヲ加ヘ、將ニ暗流ノ那邊ニカ進逸セントスルノ狀アリ、一月五日ニハ仁川在泊露國軍艦「ギリヤーク」ヨリ士官以下水兵二十餘名、夜半密ニ上陸シテ徒步入京シ、翌夜再二十餘名ノ水兵入京セルヲ始メトシテ、同港ニ碇泊セル英國軍艦「クレッセー」「タルボット」佛國軍艦「パスカル」「ゲードン」伊國軍艦「エルバ」米國軍艦「ウイックスバーグ」及ヒ同國運送船「ザヒロ」號等ヨリ公使館及ヒ居留民ノ護衛ヲ名トシ、相踵テ京城ニ送兵スルアリ、一月六日入港セル露艦「ポヤーリン」ノ如キハ定員外ノ水兵百二十餘名、士官二名ヲ乘セ、將ニ入京セシメントスルモノヽ如シ、又露國軍艦一隻巡威島錨地ニ入リテ、何事カ爲サントスルノ巷說アリ、當時京城ニ在留セル帝國臣民三千六百餘名、仁川ニアルモノ六千四百餘名ニ達セシカ、衆皆戰々競々トシテ寸時モ心ヲ安セス、而テ千代田艦長海軍大佐村上格一ハ深ク時局ノ趨勢ニ鑑ミ、諸事愼重ノ態度ヲ取リ、常ニ仁川等ノ狀況ヲ海軍大臣若クハ軍令部長ニ報告スルト同時ニ、其ノ所屬長官タル第三艦隊司令長官海軍中將片

岡七郎ニモ亦之ヲ報告シテ其ノ指令ヲ仰キ、一ニ之ニ依テ行動センコトヲ期シ、且此ノ際乗員ニ對スル教育訓練ノ一層忽ニスヘカラサルヲ感セシカ故ニ、水雷發射及ヒ其ノ他ノ操練施行ノタメ、暫時代艦ヲ得テ出動センコトヲ片岡司令長官ニ請フ所アリ、然ルニ同長官ハ此ノ際千代田ノ仁川ニ在泊スルヲ最必要ナリトシテ許サス、且内命スルニ、突然不意ノ變事ヲ見ルカ如キ事ナキヲ保セサルカ故ニ、最警戒留意スヘキヲ以テス、是ヲ以テ同艦長ハ常ニ韓國駐箚帝國全權公使林權助、公使館附武官海軍少佐吉田増次郎、京城駐在帝國領事三増久米吉及ヒ仁川駐在帝國領事加藤本四郎等ト協議シ、情報ノ時局ニ關スルモノハ事細大トナク之ヲ交換シ、且屢書ヲ本國ノ當局者ニ送リテ内地ノ現狀ヲ問ヒ、又自ラ務メテ露國艦長ト交際ヲ厚ウシ、或ハ談笑ノ間ニ時局ニ關スル彼ノ意向ヲ確メ、或ハ暗ニ艦内ノ狀態ヲ探リ、其ノ他ノ各國艦長トモ來往シテ密ニ内外ノ形勢ヲ聞知センコトニ努力シ、且新ニ入港スル艦船ニ士官ヲ送リテ新報ヲ探リ、又其ノ錨地ハ内ニ閂洲アルヲ以テ頗ル仁川埠頭ト遠隔シ、加之氷雪ノ爲メ屢汽艇ノ來往ヲ妨ケラレ、海陸ノ交通甚不便ナリシカ故ニ、乗組士官ヲ交、陸上ニ派シテ異狀ノ有無ニ留意セシムル等、情報ノ收集ニ毫末ノ遺憾ナカランコトヲ期スルト同時ニ、艦内ニ在リテハ極力兵員ノ訓練ニ務メ、士氣ノ振作ニ焦慮セリ、一月中旬ニ至リテ形勢愈穩ナラス、千代田艦長ハ尚未タ公然タル何等ノ通告ヲ受ケス、又確乎タル訓令ニ接セスト雖モ、内地ヨリ來ル總テノ通信ハ一トシテ時局ノ切迫ヲ示サヽルナキヲ以テ、益峻嚴ナル警戒ヲ加ヘ、是ヨリ逐日外面ニ顯レサル限リニ於テ密ニ艦内ノ戰鬪準備ヲ整ヘ、尚乗員ヲシテ極テ平靜ノ態度ヲ裝ハシム、

是ヨリ先キ露國軍艦「ボヤーリン」及ヒ「ギリヤーク」ハ旅順口ニ赴キ、仁川港ニ於ル露艦ハ暫時唯「ワリヤーグ」一隻トナルニ至リシカ、一月十八日露國砲艦「コレーツ」入港シテ千代田ノ北東方ニ碇泊シ、南西方ニ碇泊セル「ワリヤーグ」ト共ニ千代田ヲ相挾ムカ如キ狀ヲ呈セリ、是ヲ以テ千代田ハ、一層露國軍艦ノ擧動ニ留意ス、一月二十一日「コレーツ」出港シテ其ノ行先ヲ明ニセス、探聞スル所ニヨレハ此ノ頃我カ艦隊近海ニ出沒ストノ風説頻ナリシヲ以テ、之

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ確メンカ爲メ出港シタルモノヽ如ク、即日黄昏ニ及ンテ歸港セリ、是ヨリ以後時局ノ進行緩ナルカ如ク、急ナルカ如ク、容易ニ端睨スル能ハサリシト雖モ、千代田艦長ハ斯ル現象ノ往々ニシテ局面變轉ノ前提タルコトアルヲ察知シ、一層乘員ヲ戒飭シテ懈怠スル所ナカラシメタルニ、果然一月三十一日山本海軍大臣ヨリ左ノ飛電アリ、

我カ政府ヨリ督促ノ結果、露國ノ回答ハ來二月二日アレキセイエフ總督ニ移サルヘシトノ情報ニ接シタリ、故ニ此ノ場合ニハ最慎重ナル注意ヲ要ス、今後我カ電信不通ヲ見ルカ如キコトアルヘシト雖モ、貴官ハ我カ聯合艦隊ノ其ノ方面ニ遊弋スルマテ、其ノ地ニ留マルコトニ心得、臨機ノ處置ハ貴官ノ專斷ニ任ス、又韓國沿岸ニ於テハ他列國トノ關係ヲ惹起セサル限リ國際法上ノ例規ヲ重視スルヲ要セス、

是ニ於テ千代田艦長ハ二月一日士官ヲ京城ニ派シ、林公使及ヒ吉田海軍少佐ニ右電命ノ趣ヲ報シ、今後之ニヨリテ行動スヘキカ故ニ、其ノ進退ノ時機ハ豫メ通報スル能ハサルコトアルヘキヲ告ケ、且千代田ノ進退ニ必要ト思考セラルヽ情報ハ、此ノ際一層迅速ニ通報セラレンコトヲ請求ス、又加藤仁川領事ニ面シテ告クルニ同一事ヲ以テシ、且仁川郵便電信局長ニ照會シテ、今後若シ電信不通ノ事アラハ、其ノ故障ノ場所及ヒ回復ニ要スル豫定時日等ヲ併セテ、直ニ通報センコトヲ依頼シ、尚二月二日聯合艦隊參謀長海軍大佐島村速雄ニ左ノ如ク打電セリ、

本官ハ我カ聯合艦隊ノ當方面ニ遊弋スルニ至ルマテ當地ニ留マリ、且電信不通ノ場合ニハ臨機專斷ノ處置ヲ許スト訓電セラル、貴隊ノ當方面ニ來著スヘキ日時豫定決定セハ前以テ電報ヲ乞フ、

是ヨリ先キ露艦「コレーツ」ハ一月三十一日月尾島側ノ錨地ヲ出テ、千代田ノ東方約三百米突ノ位置ニ變移ス、其ノ何ノ故ナルヲ知ラス、千代田艦長以下乘員一同頗ル之ヲ怪ム、想フニ前錨地タリシ月尾島側ハ氷塊漂流ノ衝ニ當ルヲ以テ、之ヲ避ケンカ爲メカ、或ハ其ノ錨地ト「ワリヤーグ」トノ間ニ千代田ノ介在スルアリテ、信號通信ノ自由ナラサリシニ因ルカ、其ノ何レニモセヨ、此ノ錨地變更ニ依リ、我カ位置ハ不利ニ陷リ、且ツ其ノ警戒行動ハ自然ニ彼

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ覺知スル所ト爲ルヲ以テ、千代田艦長ハ密ニ憂慮スル所アリシカ、偶二月三日午後ニ至リ、在清國芝罘森海軍中佐ヨリ飛電アリ曰ク、旅順口ニ於ル露國艦隊ハ修理中ナル一隻ヲ除キ、戰艦六隻、巡洋艦六隻、水雷敷設艦二隻今朝出港シテ其ノ行先ヲ詳ニセスト、尋テ林駐韓公使ヨリモ加藤仁川領事ヲ經テ、同一ノ通報アリ、是ヲ以テ千代田艦長ハ同日錨地ヲ少シク南方ニ變シ、英艦「タルボット」ノ東方ニシテ、仁川埠頭ニ通スル水路口ニ近ク移泊シ、依テ以テ「コレーツ」ヨリ隔離スルト同時ニ、英艦ヲ以テ露艦「ワリヤーグ」ヲ掩ヒ、我カ警戒諸行爲ヲシテ容易ニ彼ニ知レサラシメ、兼テ一朝事アルニ際シ、容易ニ內港ニ進入スルノ便ニ資ス、然レトモ之カ爲メ我ヨリ露艦「ワリヤーグ」ノ行動ヲ認メ難キニ至リシヲ以テ、夜間ノ如キハ特ニ小艇ヲ英艦「タルボット」ノ附近ニ派シテ哨戒セシメタリ、蓋村上艦長ハ露國艦隊仁川ニ入港シ揚兵スルカ如キコトアルニ當リテハ、千代田ヲ內港ニ進メテ英國領事館及ヒ露國東清鐵道會社前ニ擱岸セシメ、先ツ彈丸火藥ノ限リヲ盡シテ露艦隊ヲ惱シ、出來得ル限リ之ヲ率制シテ、我カ艦隊ノ來港ヲ俟ツヲ以テ策ノ得タルモノト思考シタルカ爲メナリト云フ、是ニ於テ四日早朝ヨリ航海長ヲシテ港內ニ通スル水路ヲ精測セシメ、且乘員ヲシテ無線電信機ニ何等感觸スル所ナキヤヲ注意セシム、然ルニ同日午前四時海軍大臣ヨリモ亦露國艦隊出港ノ電報ニ接シ、一層嚴ナル警戒ヲ要スヘキ命アリ、又當時吳軍港ニアリシ第三艦隊司令長官片岡中將モ亦千代田ヲ警戒スルニ同一事ヲ以テシ、且佐世保軍港、竹敷要港ニハ水雷敷設ノ實施ヲ命セラレタルコトヲ報ス、是ヲ以テ千代田艦長ハ外交談判ノ愈破綻ニ近ツキタルヲ察セシカ、同日午後三時在京城吉田公使館附武官ヨリ急電アリ曰ク、浦鹽斯德軍隊司令官ハ我カ貿易事務官ニ對シ、何時同地ハ臨戰合圍地トナルヤモ知ルヘカラストノ理由ヲ以テ、在留日本人ノ引退ヲ請求セリ、又陸兵六中隊二月二日遼陽州ヲ出發シテ鴨綠江ニ向ヒ、又韓廷ニハ不日露國軍艦七隻及ヒ陸兵三千仁川港ニ來著ストノ說アリ、且只今接手セル米國人ノ報告ニヨレハ、露國艦隊ハ陸兵ヲ護送シテ仁川港ニ向ヘリト、尋テ海軍大臣ヨリ電命アリ曰ク、昨日旅順口ヲ發セシ露國艦隊ノ行先今尙不明ニシテ、或ハ韓國ノ北部西岸ニ出沒スルヤモ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

知ルヘカラス、貴官ハ出來得ル限リ之カ所在ヲ探知センコトヲ務ムヘシト、是ヲ以テ村上艦長ハ同日午後五時在芝罘森海軍中佐ニ打電シテ仁川附近異狀ナキヲ告ケ、露艦隊ノ行先判明セルヤ否ヲ問ヒ、同時ニ海軍大臣ニ向ヒ只今當地異狀ナシ、此ノ後萬一露國艦隊入港シテ揚兵ヲハ兵力ヲ以テ之ヲ妨害スヘキヤヤ否ヤ人心恟々タルコト甚シ、速ニ我カ艦隊ノ來著ヲ望ムト電請セシカ、後靜ニ想ヘラク、此ノ際暫ク千代田ノ此ノ地ヲ去ルヲ以テ或ハ反テ萬全ノ策トナスニアラサルカト、乃チ五日正午海軍次官海軍少將齋藤實ニ左ノ電請ヲナセリ、

今日ノ場合露國艦隊萬一我カ艦隊ニ先ンシ當地ニ來著シテ本艦ヲ威迫スルコトアラハ、極力抵抗ヲ試ミル考ナレトモ、得ル處ナクシテ自滅スルニ終リ、其ノ結果全軍ノ士氣ニモ關シ、且彼ノ反抗心ヲ挑發シテ却テ我カ居留民ノ危害ヲ招クニ至ルヘキヲ憂慮ス、永ク當地ニ我カ軍艦在泊セサルトキハ韓人ニ對スル威信ニ關スヘキモ、我カ艦隊ノ來著近キニアラハ、一時當地ヲ離ルヽヲ以テ居留民竝ニ全軍ノ利益ニアラスヤト、ノ思案實況ニ照シテ浮ヒタル儘意見具陳ス、艦內士氣旺盛決心堅固ナリ、幸ニ不名譽ノ誤解判斷ヲ賜フコト勿レ、

少焉アリテ同日午後一時在芝罘森海軍中佐ヨリ、敵艦隊ノ所在未タ詳ナラサル旨ヲ告ケ來リシカ、同二時半更ニ同中佐ヨリ飛電アリ曰ク、先ニ出港セル敵艦隊ハ其ノ夜大連灣ニ假泊シ、昨四日午後三時頃全部旅順口ニ歸港セリト、又同日午後六時五十分海軍大臣ヨリ同三時一分東京發ノ警電ニ接ス曰ク、我カ艦隊ハ愈進發ヲ命セラレタリ、其ノ艦ノ進退ニ關シテハ更ニ何分ノ命令アル迄本件嚴祕ヲ守ルヲ要スト、尋テ又日露交戰中何分ノ命令アルマテ、明治二十七年大本營制定捕獲規程ヲ適用スヘキ電訓ヲ受ケ、又軍令部長ヨリ電信線切斷ノ訓令ニ接シタル旨、同夜在京城吉田海軍少佐ヨリ電報アリ、是ニ於テ村上艦長ハ兩國々際關係ノ愈斷絶シタルコトヲ知リ、全艦員ニ警戒ヲ命シ、一意露艦ノ動作ニ留意シテ後命ヲ俟チシニ、六日午後二時四十分海軍大臣ヨリ遂ニ左ノ電命ニ接ス（零時三十分東京發）

聯合艦隊ハ六日佐世保ヲ發ス、貴官ハ八日午前八時外ベーカー島ノ南方

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ於テ、瓜生司令官ノ率ヰル第四戰隊ニ合併スル如ク、仁川港ヲ出發スヘシ、八日午前八時第一戰隊其ノ他ハ小青島ノ南方ニアリ、

村上艦長ハ此ノ命ヲ受ケテ思ヘラク、出港ノ時機ハ正ニ七日夜半ヲ適良トス、今明ノ兩日及ヒ出港ノ際ハ、最安危ノ係ル所ニシテ、固ヨリ寸時モ油斷スヘカラスト、密ニ戰鬪準備ノ足ラサル所ヲ補ヒ、極テ之ヲ外間ニ洩レサラシメ、夜ニ入リ哨兵ヲ配シテ嚴密ナル警戒ヲナス、

午後十一時三十分在京城吉田海軍少佐ヨリ電報アリ曰ク、釜山港守備隊ヨリノ電報ニヨレハ、本日午後平遠、扶桑其ノ他ニテ露國商船二隻ヲ拿捕セリト、千代田艦長ハ茲ニ愈戰端開始セルヲ知リ、千代田ノ位置ノ頗ル危險ニ瀕セルヲ覺知シ、若シ露艦ニシテ之ヲ知ルアラハ、彼必ス我ニ先ンシテ敵對行爲ニ出テン、如カス我ヨリ機先ヲ制センニハト、即刻海軍大臣ニ左ノ如ク打電シテ指命ヲ仰ケリ、

釜山守備隊ヨリ我カ軍艦露國商船ヲ拿捕セリトノ報ニ接ス、若シ信ナランカ、我露艦ニ先ンシテ戰鬪運動ヲ爲サヽレハ、危險ナリ、今夜中ニ轟沈センコトヲ試ミ宜シキヤ、大至急電信ニテ御指令ヲ乞フ、指令今夜中ニ間ニ合ハサレハ取止ム、

時正ニ二月七日午前零時二十分ナリ、密ニ命ヲ下シテ魚形水雷ニ裝氣シ、彈丸裝藥ヲ砲側ニ備ヘシメ、出港ノ準備ヲ整ヘテ電命ヲ俟ツ、蓋艦長ノ意ハ海軍大臣ノ命令如何ニヨリ直ニ錨鎖ヲ切リテ出テ、英艦「タルボット」ノ南方ヨリ先ツ艦首發射管ヲ以テ露艦「ワリヤーグ」ニ一擊ヲ加ヘ、右迴シテ兩艦ノ間ニ入リ、左舷發射管ヨリ又一發ヲ放チ、時機ニヨリ一舷側砲火ヲ加ヘテ瞬時ノ間ニ之ヲ擊沈セントスルニアリシト云フ、而テ午前一時ニ至リ海軍大臣ヨリ左ノ電訓アリ、

仁川港內ニ在リテハ各國軍艦碇泊シアルヲ以テ、露國軍艦ニ向ヒ我ヨリ敵對行爲ヲナスハ、國際上穩ナラサルニ付之ヲ爲スヘカラス、又瓜生司令官ニ出會シタルトキハ此ノ電報ノ旨、傳達スヘシ、

村上千代田艦長乃チ前記ノ計畫ヲ停止セリ、是ヨリ先キ同艦長ハ談判破裂ノ事ヲ知ルト同時ニ、加藤仁川領事及ヒ吉田海軍少佐等ト相謀リ、京城及ヒ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

仁川郵便電信局長ニ依頼シ、我カ交通線ヲ通過シテ露國官憲及ヒ軍艦ニ至ルヘキ通信ヲ抑留セシメ、以テ四邊ノ情況ヲシテ迅速露國人ノ耳ニ達セサラシメンコトヲ務メ、尚事ノ外國軍艦ヨリ漏洩センコトヲ虞リ、此等ニ至ルヘキ通信モ亦適宜之ヲ停滯セシメタリシカ、是ニ於テ尚露船拿捕ノ事實ヲ祕密ニセンカ爲メ、午前三時加藤領事及ヒ吉田海軍少佐ニ打電スルニ、捕獲事件ヲシテ今明日ノ間露國人ニ知レサラシメ、且新聞紙上ニ掲載セサラシメンカ爲メ、急速配慮セラレンコトヲ以テス、斯クテ事ナク一夜ヲ過シテ翌七日ニ至ルヤ、露國軍艦ノ狀態ニ於テ未タ平常ト異ナル所アルヲ認メスト雖モ、尚瞬時モ警戒ヲ怠ラス、此ノ日外來ノ諸商人ノ如キハ艦内ニ留メテ之ヲ還サス、是我カ艦内戰備ノ狀況他ニ漏洩センコトヲ恐レタレハナリ、午後一時十五分ニ至リテ伊東軍令部長ヨリ電報アリ曰ク、露國艦隊ノ主力ハ尚旅順港外ニアリ、本日夕刻ニ於ル在仁川露國軍艦ノ模樣及ヒ諸外國軍艦ノ動靜ヲ電報セヨト、午後三時頃ヨリ靜ニ汽罐ニ點火シテ汽醸ヲ勉メ、尚徐々航海ノ諸準備ヲ整フ、幸ニシテ薄暮ニ至ルモ四境異變ヲ見ス、乃チ軍令部長ニ返電シテ曰ク、在泊露國軍艦及ヒ諸外國軍艦ノ模樣ニ異狀アルヲ認メスト、而モ尚村上艦長ハ爾後數時間ヲ以テ最慎重ノ考慮ヲ要スヘキ時機トナシ、特ニ警戒ヲ嚴ニセリ、是ヲ以テ夜ニ入リ汽艇ヲ揚收スルヤ、露艦ヲシテ之ヲ覺ラサラシメンカ爲メ、號笛ヲ用ヒス、燈火ヲ點セス、乘員モ亦善ク其ノ意ヲ體シテ敢テ片言隻語ヲ發スルモノナク、極テ靜肅ナルコトヲ得タリ、次テ外來商人等ヲ集メ、本艦ノ行動ニ關シ必ス何等他言スルコトナキヲ誓ハシメ、以テ之ヲ還ス、同十一時三十分出港ノ諸用意全ク成リ、次テ靜ニ錨鎖ヲ縮ム、偶落潮時ニ際シ艦首北方ニ向ヒテ出港ニ便ナラス、先ツ露艦ノ眼ヲ瞞サンカ爲メ、碇泊燈ヲ撤セス英艦ノ蔭ニ在リテ巧ニ回頭シ、同十一時五十五分悉ナク揚錨シ、錨地ヲ離レ、十二海里ノ速力ヲ以テ港口ニ向フ、幸ニシテ露艦ハ毫モ覺知セサリシモノヽ如シ、此ノ夜風死シ、四邊暗黑ニシテ、展望極テ惡シク、港口ノ諸燈凍寒ノ爲メニ消滅シテ前路ヲ照スモノナク、航海甚困難ナリシト雖モ、又之カ爲メ露艦ノ探知スル所トナラサルヲ得、二月八日午前零時半八尾島ヲ迴リテ港口ヲ南下シ、後半速力ニ減シテ外洋ニ出テ、ベーカー

島ニ向フ、

第三節　派遣隊ノ上陸掩護

瓜生司令官ハ其ノ麾下ノ艦隊ヲ以テ臨時派遣隊ヲ護衛シ、二月八日午前八時三十分ベーカー島ニ達スルヤ、前夜分離セル第九艇隊ノ三艇ト合同シ、且豫定ノ如ク千代田ト會合スルヲ得テ、仁川方面ノ敵狀ヲ聞キ、露艦ノ態度未タ自ラ我ニ向ヒテ敵對行爲ヲナスノ憂ナキヲ知リ、加フルニ陸兵入京ノ急ヲ要スルヲ以テ、揚陸地ヲ仁川港ニ定メ、優勢ナル我カ武力ヲ示シテ彼ヲ威壓シ、喃嗟ノ間ニ任務ヲ結了センコトヲ策定シ、先ツ牙山灣口ニ到リテ各艦艇ニ其ノ向フヘキ部署ヲ知悉セシメント欲シ、速力ヲ十三海里ニ增加シ、尋テ全艦艇ニ令シテ戰鬪部署ニ就カシム、

午後零時三十分牙山灣口ニ達シテ假泊スルヤ、瓜生司令官ハ麾下各艦長ヲ其ノ旗艦浪速ニ招致シテ軍議ヲ凝シ、且左ノ命令ヲ交附ス、

一、二月七日午後十一時敵情

濟物浦ニハ露艦「ワリヤーグ」「コレーツ」二隻依然碇泊セリ

二、陸兵陸揚所ヲ濟物浦トシ直ニ進入揚兵ニ著手セントス

三、濟物浦錨地以外卽チヨドルミ島以南ニ於テ露艦ニ出會セハ擊沈スヘシ

四、濟物浦錨地ニ於テハ露艦ヨリ對敵行爲ヲ始ムルニ非サレハ我ヨリ攻擊ヲ始メス

五、牙山灣口假泊地出港用意ト同時ニ艦隊區分ヲ左ノ如ク改ム

第一小隊　(一)浪速　(二)高千穗　(三)千代田

第二小隊　(四)淺間　(五)明石　(六)新高

第一小隊附　第九艇隊

第二小隊附　第十四艇隊

六、濟物浦錨地進入ノ行動ヲ左ノ如クス

(イ)千代田、高千穗、淺間ハ第九艇隊及ヒ運送船大連、小樽、平壤ヲ率ヰ濟物浦錨地ニ進入ス

(ロ)第九艇隊ハヨドルミ島ヲ經過セハ先頭ニ進ミ敵ヲ驚惶セシメサル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

平和ノ態度ヲ以テ二艇ハ敵艦ノ砲火ヲ隱蔽セラレタル位置ニ假泊シ他ノ二艇ハ同シク平和ノ態度ヲ裝ヒ一艇宛「ワリヤーグ」「コレーツ」ニ對シ一瞬ノ間彼ノ死命ヲ制シ得ル位置ニ假泊スヘシ

(ハ)高千穗ハ千代田カ從來在泊セル附近ニ假泊位置ヲ撰フヘシ

(ニ)千代田ハ適當ノ位置ヲ撰ヒ假泊スヘシ

(ホ)運送船隊ハ淺間ニ尾行シ千代田、高千穗ノ列ヲ脫シテ進入スルヲ見ハ迅速揚陸ニ便ナル錨地ニ進入シ直ニ揚陸事業ニ著手スヘシ出來得ヘクンハ今夜ノ滿潮ニ乘シ內港ニ入ルヲ希望ス

(ヘ)浪速、明石、新高ハ運送船隊ニ次テ前進シフ非リツプ島ノ南方ニ於テ約北東線ニ假泊スヘシ

第十四艇隊ハ春日丸ヨリ炭水補給ヲ終ヲハ二艇ヲヨドルミノ南方二艇ヲ浪速假泊地附近ニ位置セシメ夜間敵艦ノ航下スルヲ襲擊スルニ任スヘシ

(ト)淺間ハ日沒前假泊地ヲ發シ浪速ノ假泊地ニ來リ假泊ス

七、敵若シ我ニ對シ砲火水雷等ヲ以テ戰鬪行爲ヲ始メタル場合ニ於テハ他國艦船ノ在泊セルニ關セス直ニ敵艦擊破ノ動作ニ出ツヘシ

八、フ非リツプ島附近ニ碇泊セル艦ハ翌未明牙山灣口錨地ニ來リ泊ス

九、濟物浦碇泊ノ艦艇ハ揚陸事業ノ大部終ルヲ見ハ牙山ニ來泊スヘシ

一〇、春日丸、金州丸ハ此ノ附近ニ於テ便宜第十四艇隊ニ炭水ノ補充ヲナシ牙山馬山浦港口錨地ニ止マリ夜間ハ燈火ヲ滅スヘシ

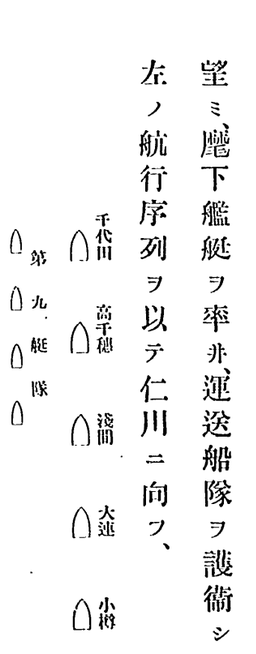
一一、濟物浦警戒ノ水雷艇ハ露艦航下ヲ認メハ直ニ追尾シヨドルミ以南ニ於テ時機ヲ得次第擊沈スヘシ

一二、假泊中ハ常ニ錨鎖解脫ノ準備ヲナシ蒸氣ヲ保チ二分ノ一哨兵警戒ヲナスヘシ（四戰機密第二八號）

此ノ際我カ國旗ヲ揭ケタル一小汽船ノ仁川ヨリ出テ來ルアリ、仍テ水雷艇隼ヲシテ之ヲ臨檢セシメタルニ、該船ハ瑞陽丸ト號シテ我カ陸軍將校乘船シ、派遣隊ノ消息ヲ知ランカ爲メ來レルモノニシテ、露國軍艦二隻ノ今尙依然トシテ仁川ニ碇泊セルヲ告ク、又牙山偵察ノ命ヲ受ケテ昨夜本隊ト分離

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セル第十四艇隊ノ二艇モ此ノ時歸リ來リテ異狀ナキヲ報ス、是ニ於テ瓜生司令官ハ陸軍韓國臨時派遣隊司令官木越陸軍少將ニ信號シテ、運送船ノ仁川ニ著スルヤ否ヤ有ラン限リノ手段ヲ盡シテ最神速ニ揚兵セシムヘキヲ望ミ、麾下艦艇ヲ率ヰ、運送船隊ヲ護衛シテ、午後二時十五分牙山灣口ヲ出テ、左ノ航行序列ヲ以テ仁川ニ向フ、



午後四時二十分八尾島附近ニ至ルヤ、豫定ノ如ク千代田、高千穗ノ二艦ハ列ヲ離レテ前進シ、第九艇隊ハ其ノ左舷後方ニ從ヒ、淺間ハ少シク後レテ運送船ノ先頭ニアリ、偶〻露艦「コレーツ」港内ヨリ進航シ來ルニ會ス、是ニ於テ千代田、高千穗ハ共ニ乘員ヲ戰鬪部署ニ就ケ、密ニ砲員ヲ砲側ニ隱シテ萬一ニ備ヘ、尙平和ノ態度ヲ裝ヒテ行進ヲ續行ス、已ニシテ彼我ノ距離漸ク接近スルモ、「コレーツ」ハ啻ニ何等戰鬪ノ準備ヲナセル形跡ナキノミナラス、衞兵ヲ前甲板ニ立テ、敬禮ヲ表シ、毫モ不穩ノ狀ヲ呈スルコトナク、遂ニ二艦ノ左側約百米突ヲ隔テ、通過セリ、二艦ハ尙前進シテ豫定錨地ニ向ヒシカ、淺間ハ直ニ暫ク左方ニ針路ヲ反轉シテ、「コレーツ」ト運送船トノ間ニ入リ、以テ運送船ヲ掩護シ、彼若シ敵意ヲ表スルト見ハ、一擊之ヲ粉齏スヘキノ勢威ヲ示シ、又運送船ハ稍右方ニ針路ヲ轉シ、以テ露艦ヲ遠サカリツヽ依然進行ヲ繼續セリ、而テ第九艇隊モ亦「コレーツ」ヲ左舷正横ニ見ルニ及ヒ、左十六點ノ正面變換ヲ行ヒテ之ヲ追尾シ、第一小隊タル蒼鷹、鴿ハ其ノ左方ニ急航シ、第二小隊タル雁、燕ハ其ノ右方ニ出テントセシカ、燕誤リテ八尾島ノ北方ナル淺堆ニ坐洲セリ、次テ他ノ三艇ハ各發射管ヲ露艦ニ照準シ、二十六海里ノ速力ヲ以テ突進セシニ、八尾島附近ニ至リ、露艦右方ニ回頭セントシタルヲ以テ、艇隊ハ機熟セリト爲シ、雁先ツ三百米突ノ距離ヲ測リテ乙種水雷ヲ發射セシニ、「コレーツ」之ヲ覺知セルモノヽ如ク、取舵ニ轉シテ之ヲ避ク、蒼鷹、鴿モ亦直ニ右方ニ方向ヲ變シテ、露艦ニ逼リシニ、彼ハ砲火ヲ開キテ應戰セリ、時ニ午後四時四十分ナリ、次テ鴿ヨリモ乙種水雷ヲ發射セシニ命中セス、蒼鷹ハ距離八百乃至九百米突ナルヲ測リタルヲ以テ、未タ發射スルニ至ラス、時ニ淺

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

間ハ既ニ前針路ニ復シテ進航シ、「コレーツ」ト相距ル約五千米突ノ處ニ在リシカ、其ノ發砲ヲ認ムルト同時ニ、後方ニ在ル旗艦浪速ニ「コレーツ」發砲セリト信號シ、運送船ニハ引返セト命シ、自己モ亦敵艦ノ水雷ヲ避クル爲メ、右舷ニ回頭シテ、沖合ニ出テントセシカ、恰モ此ノ際「コレーツ」ハ發砲ヲ止メ、仁川錨地ニ引返シタルヲ以テ、淺間ハ再右舷ニ回頭シ、「コレーツ」ト常ニ五千米突ノ距離ヲ保チテ同錨地ニ進ミ、運送船モ亦同方向ニ進航セリ、

浪速、明石、新高ハ「コレーツ」ノ我カ運送船隊ニ近ツクニ及ヒテ、少シク針路ヲ右方ニ轉セシモ、敵ノ回頭シテ錨地ニ退却スルヲ認ムルヤ、直ニ港内ニ向ヒテ進ミ、千代田、高千穗及ヒ第九艇隊ハ各錨地ニ突進シテ略豫定ノ位置ニ投錨シ、運送船隊モ亦投錨ス、而テ淺間ハ露艦ヲ距ルコト南方約五千米突ノ位置ニ漂泊シ、浪速、明石、新高ハ港内ヲ一週シテ我カ武威ヲ示シタル後、明石ハ運送船隊保護ノ爲メ、其ノ錨地附近ニ碇泊シテ、在港先任將校高千穗艦長海軍大佐毛利一兵衛ノ指揮ヲ受ケ、浪速、新高ハ港外ニ出テ、茲ニ第十四艇隊ト合同シテ、午後六時四十分八尾島西方ノ豫定錨地ニ假泊シテ、豫定ノ警戒配備ニ就ク、蓋同艇隊ノ二艇ハ前夜本隊ト分離シテ、皇子叢島附近ヲ偵察シタル後、牙山灣口ニ於テ他ノ二艇ト合シ、共ニ來リ會セシモノナリ、日沒前淺間モ亦本隊ノ碇泊地ニ來會シテ配備ニ就ク、

當時仁川碇泊ノ軍艦ハ露艦「ワリヤーグ」、「コレーツ」、英艦「タルボット」、佛艦「パスカル」、伊艦「ユルバ」、米艦「ウヰツクスバーグ」、韓國軍艦揚武及ヒ露國商船「スンガリー」等ナリ(附圖參照)此ノ際露艦「ワリヤーグ」ハ其ノ前桁ニ洗濯物ヲ懸ケ、煙突ニ煙ヲ見ス、何等ノ戰鬪準備ヲ施サヽルモノヽ如ク、我ニ向ヒテ全ク警戒セルトコロナキカ如シ、而テ「コレーツ」モ亦「ワリヤーグ」ノ側ニ投錨碇泊シテ、何ノ爲ス所ナク意氣頗ル銷沈セルモノヽ如シ、

是ニ於テ運送船隊ハ速ニ派遣隊ノ陸揚ヲ開始シ、高千穗、千代田、明石及ヒ第九艇隊ハ各其ノ錨地ニ在リテ終宵二直哨兵ヲ配備シ、專ラ露艦ノ動靜ニ留意ス、

此ノ日我カ無線電信ハ絶エス敵艦ノ爲メニ妨害セラレテ、各艦ノ通信意ノ如クナラス、瓜生司令官ハ午後十時辛ウシテ高千穗ヨリ明朝六時頃揚兵結

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

了スヘキ豫定ナル旨ノ通信ヲ得タリ、次テ又無線電信ニヨリ千早ノ蔚島附近ニ來レルヲ知ル、乃チ千早ニハ牙山灣馬山浦沖ニ春日丸、金州丸ヲ殘シ置キタル旨ヲ報シ、港外ニアリテ警戒スヘキヲ命ス、

是ヨリ先キ瓜生第二艦隊司令官ハ臨時派遣隊ノ事ナク陸揚ヲ終リタル後、在泊敵艦「ワリヤーグ」「コレーツ」ニ對シテ採ルヘキ處置ヲ定メ、此ノ夜參謀海軍少佐谷口尙眞ヲ仁川ニ送リ、加藤領事ヲ介シ、露國領事ヲ經テ在港露國先任艦長ニ公文ヲ發シ、同艦長ハ仁川ニ於ル其ノ麾下ノ軍艦ヲ率ヰテ、二月九日正午迄ニ仁川港ヲ出ツヘク、若シ出港スルナクンハ港內ニ於テ砲擊スルノ止ムヲ得サルニ出ツヘキ旨ヲ傳ヘ、又同シク我カ領事ヲ介シテ、在仁川港英、清領事、韓國官衙、仁川稅關長及ヒ各國居留地會長ニ右公文ノ旨ヲ通シ、且該砲擊ハ九日午後四時迄實行セラレサルヘキコトヲ告ケ、更ニ在港英、佛、米、伊、韓ノ先任艦長ニモ右通告ノ理由ニヨリ危害ヲ他ニ及スナキヲ必シ難キカ故ニ、錨位ヲ安全ナル地ニ變更センコトヲ乞フ旨ノ公文ヲ發セリ、（此ノ通告ハ九日午前七時ヲ以テ悉ク交附セラレタリ、公文ノ寫及ヒ該公文ニ對スル列國艦長等ヨリノ抗議、其ノ他ノ往復公文ハ備考文書ニ掲ク、）二月九日午前二時水雷

艇燕ハ、毛利高千穗艦長ヨリ瓜生司令官ニ致セル左ノ報告ヲ齎シテ、仁川錨地ヨリ港外ニ來レリ、

二月八日午後九時英艦「タルボット」艦長來訪シテ曰ク、予ハ在港各國軍艦ノ先任艦長トシテ在港日本先任艦長タル貴官ニ問フ、貴官若シ仁川港ヲ中立國ノ港トシテ尊敬セラルヽナランニハ、外國軍艦ニ危害ヲ與フルカ如キ砲擊若クハ其ノ他ノ行爲ニ出ツルコトナカルヘキヲ信ス、如何ト、依テ本官答ヘヲク本港ニ於テハ露艦ヨリ我ニ危害ヲ加ヘサル限リ我ヨリ決シテ外國軍艦ニ危害ヲ與フルカ如キコトナカルヘシト、彼又問フテ曰ク、本日貴國水雷艇ハ露國軍艦「コレーツ」ニ向ヒテ水雷ヲ發セリト云フ、是如何ナル故ソト、依テ本官ハ未タ斯ル事實ノ存否ヲ確聞セスト答フ、彼ハ我カ陸軍ノ揚陸ニ關シテ何等一言ノ云フ所ナク、唯仁川ニ於テ陸兵ノ紛亂ナカランコトヲ希望スル旨ヲ告ケ、日、英兩國ノ親密ヲ口ニシテ甚厚意ヲ表シ、本艦ヲ辭シテ露艦ニ趣ケリ、後同艦長ハ本艦ヨリ出セル訪問使ニ謂テ曰ク、露艦長ハ紛亂ノ惹起ヲ避ケンカタメ、日本ノ揚兵ニ對シテ些ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

妨害ヲ加フルコトナカルヘキヲ斷言セリト、

又千代田艦長村上大佐ハ英艦「タルボット」艦長ヲ訪問シテ、聞知セル所ヲ司令官ニ報告スル左ノ如シ、

八日露國軍艦「コレーツ」ノ出港セルハ旅順口ニ赴カンカ爲メナリシト云フ、又露國商船「スンガリー」號ハ同國公使館ノ祕密書類ヲ載セ、九日午前十時出港シテ旅順口ニ赴クヘシトノ情報アリ、

是ニ於テ瓜生司令官ハ午前五時水雷艇鵲ヲ、港外警戒中ノ千早ニ送リ、其ノ艦ハ二月九日朝第十四艇隊ノ一艇ヲ率ヰテ、蔚島附近ヲ巡邏警戒シ、九日午前十時仁川ヲ發シ露國公使館ノ祕密書類ヲ齎シテ旅順口ニ向フト稱スル露國商船「シルカ」號（編者曰ク訓令ニハ「シルカ」トアレトモ後ニ至リ「スンガリー」ノ誤ナリシヲ知ル）ノ航下スルヲ見ハ、之ヲ捕獲シテ該書類ヲ差押ヘ、牙山錨地ニ曳行キ、後命ヲ待ツヘシトノ訓令ヲ與ヘ、更ニ第十四艇隊司令海軍少佐櫻井吉丸ニ訓令シテ、九日早朝其ノ麾下ノ一艇ヲ牙山ニ派シテ、千早艦長海軍中佐福井正義ノ指揮下ニ屬セシメ、又水雷艇燕ヲ港内ニ送リ、千代田艦長ニ託シテ海軍大臣ニ戰況ヲ電報シ、且同艦長ニ命スルニ、英艦「タルボット」艦長ニ面會シ、錨地變更ノ我カ請求ニ各國軍艦ノ應スル樣周旋セラレタキコト、竝ニ露國軍艦ヘノ通告達シ居ルヤ若シ疑ハシクハ之ヲ送附スルノ勞ヲ執ラレタキコトヲ依賴セシム、海軍大臣ニ報告セル電文左ノ如シ、

八日午後五時運送船隊ヲ率ヰテ仁川ニ入港ノ際、八尾島附近ニ於テ「コレーツ」ノ出港シ來ルニ會シ、運送船攻擊ノ態度ト認メ、水雷艇ヨリ二發ノ水雷ヲ發射セシモ中ラス、彼ハ一二發ノ發砲ヲナシ、仁川ニ引返シテ碇泊セリ、

本職ハ露國先任艦長ニ對シ、九日正午迄ニ仁川ヲ退去センコトヲ强請シ、若シ應セサレハ港内ニ於テ彼ヲ攻擊スルノ已ムヲ得サル旨、九日午前八時通告シ、在港列國艦船ニハ此ノ理由ヲ以テ、九日午後四時マテニ錨場ヲ變センコトヲ直接又ハ我領事ヲ經テ列國領事ニ午前七時配布セリ、依テ九日午後四時以後ニ於テ此ノ計畫ヲ實行セントス、

斯クテ揚兵ハ遂ニ露艦ノ妨碍スル所トナラスシテ、九日午前二時三十分全

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

部結了シ、大連丸、小樽丸ハ黎明錨地ヲ出テ、牙山灣ニ向ヒ、平壤丸ハ前夜高潮ニ乘シ深ク港内ニ入リタルヲ以テ、陸揚バ迅速ニ結了セシト雖モ、今朝干潮ノタメ他ノ二船ト共ニ錨地ヲ離ル、能ハス、午前十時ニ至リテ始テ出港スルヲ得タリ、

第四節　仁川沖ノ海戰

第一目　戰鬪前紀

瓜生第二艦隊司令官ハ派遣隊陸揚ノ事、九日未明迄ニ終了スルコトヲ確メシヲ以テ、前述ノ如ク挑戰ノ公文ヲ發スルニ決シ、尙陸揚未濟ノ運送船ニ對シテハ、萬一陸揚事業終了セサル場合ト雖モ、九日午前六時迄ニハ總テ出港スヘキヲ命シ、茲ニ港内在泊ノ露艦「ワリヤーグ」「コレーツ」ヲ擊滅スヘキ計畫ヲ定メ、九日午前九時左ノ戰隊命令ヲ發ス、

一、露艦「ワリヤーグ」「コレーツ」ハ濟物浦ニ在泊ス「コレーツ」ハ二月八日午後五時八尾島附近迄出港シ來リシモ我カ入港ノ勢力ニ壓セラレ引返シテ濟物浦ニ泊セリ

二、大連、小樽、平壤ヲ以テ輸送セル木越少將以下二千餘ノ我カ陸兵ハ無事揚陸ヲ終リ九日午前六時ヲ以テ悉皆結了シ運送船ハ直ニ出港ノ豫定

三、千早ハ牙山錨地ニ入港セリ春日、金州ハ該地ニアリ

四、二月九日午前七時公文ヲ濟物浦在泊露國先任艦長ニ與ヘ九日正午迄ニ其ノ麾下ノ兵力ヲ率ヰテ濟物浦ヲ去ランコトヲ強請シ若シ其ノ期間ニ去ラサルトキハ港内ニ於テ其ノ勢力ヲ攻擊スヘキヲ以テス

五、右第四項ニ依リ左ノ如ク命令セリ

(イ)運送船隊中幾分ノ揚陸殘事業アル者ト雖モ九日午前六時迄ニハ濟物浦出港ノコト

(ロ)濟物浦ニ在リテ揚陸掩護ニ從事スル高千穗、千代田、明石及ヒ第九艇隊ハ九日午前七時同所ヲ發シ本隊ニ歸投スルコト

六、右ニヨリ二月九日ハ左ノ如ク行動セントス

二月九日午前

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

浪速、新高　ヒユーマン島北方附近警戒
淺間　フ非リツプ島ノ約東微南適宜ノ位置
高千穗、明石、千代田　カツト島沖ニ會合警戒
千早　蔚島附近外海ノ警戒

此ノ配置ニ依リ露艦航下シ來リシ時淺間ヲ以テ攻擊シ浪速、新高之カ副トナリ、此ノ攻擊線ヲ免レタル時高千穗線ヲ以テ攻擊ノ第二線トス」

第九艇隊ハ必要アラハ牙山灣馬山浦港口ニ至リ春日丸ヨリ炭水補給ヲナシ第十四艇隊ト共ニ旗艦ノ附近ニ隨從シ外海ヨリノ敵襲ヲ避クル場合ニハ總艦船艇ハヒユーマン島ノ北方ニ來集スヘシ

露艦中立國軍艦ト同時ニ航下セル時ハ遙ニ水道外ニ出テ攻擊スルヲ以テ諸隊ハ水道外ニ出ツルコトニ注意スヘシ

七、九日午後一時ニ至ルモ露艦航下シ來ラサルトキハ左ノ如ク行動スル豫定ナルヲ以テ左記各艦ハ旗艦ノ位置ニ來集スルヲ要ス

旗艦ハヒユーマン島ノ北方

(イ)列國軍艦去ラサルトキ　主トシテ夜間ノ水雷攻擊ヲ用フ
(ロ)露國軍艦ノミカ又ハ少數ノ列國艦船在泊ノトキ　主トシテ艦隊ノ砲擊ヲ用フ

(イ)ノ場合ニ於テハ九日夜先ツ第九艇隊ヲシテ施行セシム

司令ハ他列國艦船ニ損害ヲ及サヽルコトニ充分ノ注意ヲ要ス

第二小隊ハ濟物浦泊地ノ眼界內ニ位置シ第十四艇隊之ニ附隨シ第一小隊ハ第二小隊ノ後方ニ位置ス

(ロ)ノ場合ニ於テハ第二小隊ハ適宜ノ陣形ヲ以テ濟物浦泊地ニ近ツキ敵ヲ距ル四千米突以外ノ處ニ假泊シ第一小隊ハ其ノ後方適宜ノ位置ヲ撰ンテ假泊、水雷艇隊ハ各其ノ附屬小隊ニ隨從シ機ヲ見テ襲擊ヲ行ハシムルコトアルヘシ、

八、濟物浦露艦攻擊事業ヲ了ラハ牙山ニ引揚クル豫定(四戰機密第三〇號)

二月九日午前七時高千穗、明石、第九艇隊ハ運送船隊ト前後シテ仁川錨地ヲ出テ、千代田ノミハ尙獨リ殘留セリ、是村上同艦長ハ前記ノ如ク瓜生司令官

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ命ニヨリ、英艦「タルボット」艦長ヘノ交渉及ヒ同司令官ヨリ海軍大臣ニ宛テタル前掲ノ電報ヲ發信セシカ爲メナリ、是ニ於テ千代田艦長ハ先ツ英艦「タルボット」ヲ訪ウテ所用ヲ辨シ、又打電ノ爲メ汽艇ヲ仁川埠頭ニ派シ、直ニ拔錨シテ英佛二艦ノ東方ヲ過キ、伊艦「エルバ」ノ蔭ニ漂泊シテ汽艇ノ歸ルヲ待チ、此ノ間砲員ヲ砲側ニ配シ、水雷ヲ裝備シテ緩急ニ應スルノ準備ヲナセシカ、同九時二十三分汽艇漸ク歸來セシヲ以テ、直ニ之ヲ揚收シ、警戒ヲ加ヘテ出港シ、八尾島側ニ假泊セル高千穗、明石及ヒ第九艇隊ト合シ、同十時三十分フ井リップ島東側ナル艦隊錨地ニ至リ、艦長ハ直ニ旗艦浪速ニ赴キ、「タルボット」艦長ト交渉ノ顚末ヲ告ケ、「タルボット」及ヒ他ノ英國艦船竝ニ財産ニシテ危害ヲ蒙ルカ如キコトアラハ、瓜生司令官ハ宜ク之ニ對シテ責任ヲ負ハサルヘカラスト、英艦長ノ宣言セル旨ヲ報セシカ、此ノ際英艦長ハ又一將校ヲ旗艦浪速ニ派シ、英艦「タルボット」艦長ベーリー、伊艦「エルバ」艦長バフボレール、佛艦「パスカル」艦長セネスノ連署ニ成レル一書ヲ出シ、錨地變更ニ關スル我カ請求ヲ容ル、能ハサル旨ノ抗議ヲ呈セリ、而テ米艦「ウイックスバーグ」艦長ハ獨リ此ノ連署ニ與ラス、蓋同艦長ハ仁川ヲ以テ中立港ト認メ、其ノ中立ヲ護ルハ當然韓國政府ニアリ、交戰國ニ對シテ抗議スルノ理由ナシト思惟シタルヲ以テナリ、而テ若シ日本軍艦ニシテ錨地ニ侵入シ來ランニハ、瓜生司令官ノ告知ニ從ヒ、上流ニ遡航スルノ決心ナリシト云フ、

尙千代田カ出港ノ際目擊セル實況ニ依レハ、露艦ハ其ノ態度甚平靜ニシテ到底出港セントスルノ形勢ナク、瓜生司令官ハ之ヲ港外ニ邀擊スルコトノ困難ヲ認メ、各艦ニ令シテ暫ク豫定配置ノ行動ニ移ルヲ待タシメ、一方隼艇長海軍大尉桑島省三ヲ旗艦ニ招キ、外國軍艦在泊ノ如何ニ關セス、錨地ニ於テ露艦擊沈ノ策ヲ講スルノ際、我カ艦隊中最內方ニ碇泊セシ淺間ハ、露艦「コレーツ」ノ遙ニ仁川錨地ヨリ出テ來リ、「ワリヤーグ」モ亦相踵テ出港スルヲ認メ、之ヲ全艦隊ニ信號ス、時正ニ午後零時十分ナリ、此ニ於テ村上艦長、桑島艇長等ハ急速旗艦ヲ退キ、瓜生司令官ハ直ニ各艦艇ニ出港用意ヲ令シ、豫定ノ配備ニ就キテ敵ヲ港口ニ要擊セントセリ、

第二目　戰鬪狀況

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

此ノ日天朗ニ氣清ク南東ノ微風徐ニ吹テ海波ヲ揚クルニ至ラス、午後零時十五分露艦「ワリヤーグ」先頭ニ立チ「コレーツ」之ニ續キ、正ニ八尾島ヲ北方ニ距ル四海里ノ位置ニ來リ、檣上明ニ戰鬪旗ノ飜ルヲ認メタリ、是ニ於テ各艦命ニヨリ其ノ乘員ヲ戰鬪部署ニ就ケ、戰鬪旗ヲ揭ケ、淺間、浪速ハ錨ヲ棄テヽ出ツ、時ニ彼我ノ距離七千米突ヲ超エス、敵艦「コレーツ」ハ此ノ時「ワリヤーグ」ノ左側ニアリシカ、次第ニ其ノ前方ヲ横過シテ右舷側ニ出テタリ、淺間ハ先ツ南方ニ向針シテ敵艦「ワリヤーグ」ヲ左舷ニ見、同二十分其ノ八尹砲ヲ以テ砲火ヲ開キ、敵艦「ワリヤーグ」モ亦直ニ發砲シテ之ニ應ス、又千代田ハ高千穗、明石ト共ニ第二戰線ニ至ルヘキ豫定ナリシト雖モ、此ノ時其ノ位置最淺間ニ接近セシヲ以テ、瓜生司令官ハ千代田ニ命スルニ、神速淺間ニ續行シテ敵ヲ邀擊スヘキヲ以テス、時ニ淺間ハ南西ノ針路ヲ進ミ、敵艦ヲ左舷後部ニ照準スルカ如キ狀態ニアリシヲ以テ、獨リ距離ノ漸々遠隔スルノミナラス、前部八尹砲ノ發射ヲ行フ能ハサルニ至リシカ故ニ、右舷ニ回頭シテ前部二門ノ八尹砲及ヒ右舷側六尹砲臺ヲ以テ猛擊ヲ「ワリヤーグ」ニ加ヘ、千代田モ亦尋テ發砲ヲ開始シ、浪速、新高モ之ニ次テ砲火ヲ交ヘ、高千穗、明石ハ豫定ノ命令ニ從ヒ、少シク退キテカツト島附近ニ第二戰線ヲ張リ、時機ヲ見テ緩射ヲ敵ニ加ヘ、第十四艇隊（鵲ヲ欠ク）ハ旗艦浪速ノ非戰側後方五百米突ニ隨行シテ襲擊ノ時機ヲ俟ツ、斯クテ各艦共ニ持重シテ苟モ輕擧セス、極テ緩ナル遠距離射擊ヲ行フコト數分時、彈丸屢敵ノ艦側ニ墜チテ水面ニ炸裂ス、而テ敵ハ初メヨリ猛烈ナル砲火ヲ我ニ注キシモ、啻ニ彈著不整ニシテ命中スルモノナカリシノミナラス、多クハ水面ノ炸裂ヲ見サルモノ多シ、少頃ニシテ六千八百米突ノ距離ヲ測リ、淺間ヨリ發射セル八尹彈丸「ワリヤーグ」ノ後艦橋附近ニ命中炸裂シ、黑煙濛々トシテ艦體ノ後半ヲ掩フ、次テ又六千三百米突ノ距離ニ於テ同艦ヨリ發セル八尹ノ一彈、其ノ前艦橋ト最前煙突トノ間ニ命中炸裂シテ火焰ヲ揚ク、後又六尹砲彈三四相次テ其ノ中央部ニ命中シ、距離稍接近スルニ及ンテ、千代田ヨリ發射セル四、七尹砲彈及ヒ浪速、新高、高千穗等ヨリ發射セル六尹砲彈ノ中、數箇相踵テ命中炸裂セルモノヽ如ク、遂ニ敵艦「ワリヤーグ」ハ我カ猛擊ニ辟易シテ右方ニ轉針シ、八尾島ノ蔭ニ隱レテ火災

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ鎮滅ニ從事セルモノヽ如シ、是ニ於テ瓜生司令官ハ同四十五分淺間ニ命シテ「ワリヤーグ」ヲ追擊セシメ、同艦ハ急ニ速力ヲ增シテ直進之ヲ追フ、千代田モ亦直ニ機關ノ回轉ヲ增シ、十五乃至十六海里ノ速力ヲ以テ之ニ隨行スルコト約二十分ニ及ヒシカ、同艦ハ開戰以前ヨリ仁川ニアリテ英炭ノ準備ナク、又船底汚穢ニシテ高速力ヲ出スコト能ハサルカ故ニ、淺間ニ續行シ難キ旨ヲ旗艦ニ報シ、此ノ時恰モ八尾島ノ北方ニ出テヽ獨リ頻ニ發砲ヲ繼續セル「コレーツ」ニ對シ、其ノ後砲臺ノ全砲火ヲ集注セシニ、其ノ一彈之ニ命中シテ火災ヲ起サシメタルモノヽ如シ、是ヨリ千代田ハ命ニヨリ浪速、新高ノ列ニ入リテ續行セリ、又追擊ニ向ヒタル淺間ハ愈有効ナル射擊ヲ續行シ、同零時五十分其ノ一彈「ワリヤーグ」ノ後艦橋下後甲板ニ命中炸裂シ、大檣上桁ノ右舷ニ垂下スルヲ見ル、而テ「ワリヤーグ」ハ尙發砲ヲ繼續セリト雖モ、已ニ多大ノ損害ヲ受ケタルモノヽ如ク、船體甚シク左舷ニ傾キ、又所々ニ火焰ヲ揚ケ、針路ヲ反轉シテ仁川錨地ニ退却ヲ始メ、「コレーツ」モ亦之ニ從フ、淺間ハ尙之ヲ追擊セシカ、同一時十五分敵艦仁川錨地ニ近ツキタルヲ以テ、茲ニ發砲ヲ中止シ、旗艦ノ電命ニ從ヒ、針路ヲ轉シテフ井リツプ島側ニ歸來ス、

浪速ハ初メ敵艦ノ揚錨出港スルヲ認ムルヤ、命ニヨリ乘員ヲ戰鬪部署ニ就ケ、戰鬪旗ヲ揭ケ、錨ヲ捨テ、出港シテ淺間、千代田ノ方向ニ進ミ出ツ、時ニ午後零時二十分ニシテ、淺間先ツ砲擊ヲ始メ、敵艦「ワリヤーグ」ノ之ニ應戰セルヲ望ミ、後同二十四分ニ至リ、「ワリヤーグ」ヲ左舷艦首約三點射距離六千八百米突ニ見ルニ及ンテ、試射ヲ行ヒシカ、未タ決定距離ヲ得サルニ先ンシ、「ワリヤーグ」ハ八尾島ニ隱蔽セラレタルヲ以テ射擊ヲ中止ス、同三十四分新高來リテ浪速ノ通跡ニ入ル、是ヨリ二艦ハ右舷ニ回頭シ、淺間、千代田ノ射擊ヲ妨ケサル如ク行動シテ「ワリヤーグ」ニ向ヒ、浪速ハ射距離六千五百米突ニ於テ左舷側六尹砲ヨリ發砲セシニ、同四十分其ノ一彈敵艦ノ中央ニ命中セルモノヽ如シ、新高モ亦同三十九分ヨリ射擊ヲ開始シ、距離六千米突乃至五千三百米突間ニ於テ六尹及ヒ十二斤砲彈ヲ發射スルコト百餘發ニ及フ、敵ハ此ノ間絕エス我ヲ猛射シ、大小ノ彈丸頭上ヲ過クルモノ數タヒ、艦ノ前後ニ墜ツルモノ其ノ數ヲ知ラスト雖モ、彈著一般ニ集中セスシテ、遠近ノ差極テ大ナ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ルノミナラス、水面ヲ打ツモ更ニ炸發スルモノナシ、同五十五分敵艦「ワリヤーグ」ハ火災ヲ起シテ八尾島側ニ隱レ、次テ淺間ノ追擊ヲ受ケ、漸次仁川錨地ニ退却シテ距離遠隔スルニ至リシヲ以テ、全ク砲擊ヲ止メ、同一時十五分新高、千代田ト共ニフ井リツプ島錨地ニ向フ、

是ヨリ先キ高千穗ハ敵艦ノ出動スルヲ見テ揚錨出港シ、豫定ノ如ク明石、千代田ヲ率ヰ、遁逃航下スル敵艦要擊ノ目的ヲ以テカツト島沖ニ向ヒ、明石ハ漸次速力ヲ增加シテ高千穗ニ續行セシカ、千代田ハ其ノ列ニ入ルニ及ハスシテ旗艦ノ命ニヨリ淺間ニ隨行ス、午後零時二十五分二艦ハ旗艦ニ準ヒテ戰鬪旗ヲ揭ケ、發砲ノ準備ヲ整ヘテ機會ノ至ルヲ俟ツ、初メ敵艦ハ港外ニ脫出セントスルカ如キ形勢アリシニ、我カ艦隊ノ猛擊ニ遭フヤ、俄ニ針路ヲ反轉シテ再仁川錨地ニ逃避セントセシヲ以テ、淺間ハ之ヲ追擊シ、高千穗ハ其ノ左舷六尹砲ヲ以テ先ツ五千六百米突ノ距離ヲ測リ、砲火ヲ開キタルニ、其ノ一彈「ワリヤーグ」ノ前艦橋附近ニ命中シタルモノヽ如シ、明石モ亦六千五百乃至六千米突ノ距離ヨリ後部六尹砲ヲ發射スルコト二發、此ノ間敵彈二

艦ノ頭上ヲ超エ、舷側ニ墜チタルモノ數發ニ及ヒシモ、一モ命中セルモノナシ、時ニ敵艦ハ漸ク遠サカリテ六尹砲彈ノ有効距離外ニ逸シ、且仁川錨地ニ向ヒテ遁走スルモノヽ如ク、再航下ノ慮ナカリシヲ以テ、二艦ハ同一時二十七分旗艦ニ準ヒテ戰鬪旗ヲ撤シ、其ノ通跡ニ入ル、

第十四艇隊ハ敵艦ノ出港ヲ見ルヤ、旗艦浪速ヨリ艇首ノ繫索ヲ解テ出動シ、午後零時二十分ヨリ全速十五節ヲ出シテ常ニ位置ヲ浪速ノ非戰側ニ占メ、各艇發射管ヲ前方十度ニ旋回シ、發射ノ準備ヲ整ヘテ好機ヲ俟チシカ、遂ニ之ヲ得スシテ、同一時二十分戰鬪ノ終結ヲ見ルニ至レリ、而テ鵲ハ曩ニ旗艦ノ命ニヨリ千早艦長ノ指揮下ニ屬シ、仁川錨地ヨリ航下スルノ慮アル露國商船「スンガリー」號拿捕ノタメ牙山ニ至リ、第九艇隊モ亦春日丸ヨリ炭水ノ補充ヲ受ケンカ爲メ、牙山灣口ニ至リシヲ以テ、等シク此ノ戰鬪ニ加ハラス、後同、艇隊ハ仁川方面ニ於ル砲聲ヲ聞キ、急速補充ヲ結了シ、運送船保護ノ爲メ燕獨リ同灣ニ止マリ、他ノ三艇ハ急行シテ、同二時二十五分艦隊錨地ニ來リ合セリ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

初メ敵艦多大ノ損傷ヲ受ケテ港内ニ退却シ、淺間ノ之ヲ追擊スルヤ、瓜生司令官以爲ヘラク、敵艦ノ措置ニ關シテハ別ニ心算ノ有ルアリ、然ルニ今若シ深ク之ヲ追擊セハ、列國軍艦ノ在泊セル錨地ニ於テ再交戰ノ開始ヲ見ルニ至ルヘク、依テ以テ港内ノ擾亂ヲ招キ、外交上ノ煩累ヲ後日ニ遺スカ如キ虞アルヘシト、依テ午後一時十五分淺間ニ歸來ヲ命シ、更ニ命ヲ傳ヘテ戰鬪ヲ中止シ、同五十分諸艦ヲ率ヰテ井リップ島附近ニ假泊ス、

此ノ戰ニ於テ我カ彈丸ノ「ワリヤーグ」ニ命中セルモノ八尹彈三、六尹彈及四、七尹彈八、合計十一發ナルモノヽ如ク、又同艦ハ火災ニ罹ルコト數回ニシテ、退却ノ際尚鎭火スルニ至ラス、船體左舷ニ傾キテ後部沈下シ、「コレーツ」モ亦一彈ヲ受ケテ煙突ノ後部ニ失火セルモノヽ如シ、之ニ反シテ敵艦ヨリ發射セル彈丸ハ縱横亂飛シテ、或ハ艦ノ首尾ヲ過キ、或ハ舷外ニ墜チ、或ハ頭上ヲ掠メタルモノ擧ケテ數フヘカラス、然レトモ一彈モ能ク命中セス、全艦艇一ノ死傷者ナク、些ノ損害ナシ、

尋テ瓜生司令官ハ敗走セル露艦攻擊ノ策ヲ講シツヽアリシカ、午後四時三十分仁川泊地ニ方リテ爆聲ノ轟クヲ聞キ、白烟ノ天ニ漲ルヲ見ル、其ノ狀恰モ敵艦ノ爆發セルモノヽ如シ、乃チ明石及ヒ水雷艇眞鶴ヲシテ往テ之ヲ偵察セシメ、尚夜陰ニ乘シテ敵ノ出港遁走スルヲ防カンカ爲メ、戰隊命令ヲ發シテ警戒配備ヲ定ムルコト左ノ如シ、

一、本日ノ戰鬪ニ於テ敵艦「ワリヤーグ」ハ稍大ナル損傷ヲ被リシモノヽ如シ、

仁川港碇泊英佛伊三國艦長ハ其ノ錨地ヲ替フヘキ本職ノ請求ニ對シ之ニ應セサル旨ヲ本職ニ通シ來レリ

二、今夜艦隊ノ碇泊位置ヲ左ノ如ク定ム

浪速　リチー島頂トフ井リップ島頂トヲ連ネタル一線上ヲ井リップ島頂ヨリ約六鏈

其他ノ諸艦（淺間ヲ除ク）　浪速ヨリ南西微西六鏈ノ距離ニテ單縱陣碇泊

淺間　ヨドルミ島頂ノ北西微西7/nn西約二海里

第九艇隊　ヨドルミノ北東方ニ潛伏

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第十四艇隊ノ内二隻　ヒユーマン島ト靈興島間ノ水道警戒他ノ二隻ハ旗艦ノ側ニアルヘシ

三、敵若シ夜陰ニ乘シテ出港スルトキハ淺間ハ主ニ其ノ碇泊位置トヨドルミヲ連ヌル線及ヒ北長子嶼ヲ連ヌル線トノ交角内ニ於テ敵艦ヲ攻撃スヘシ

艦隊ハ其ノ碇泊位置ニアリテ敵艦ヲ攻撃ス

今夜第九艇隊敵ヲ發見水雷ヲ發射シタルトキハ火箭ヲ揚クヘシ

四、四戰機密第三〇號第四戰隊命令中本命令ト抵觸スルモノハ之ヲ取消ス

五、淺間、千代田第四戰隊ト合同働作中艦隊區分ヲ左ノ通リ定ム此ノ艦隊番號ハ陣形ノ如何及ヒ集合離散ニ依テ變スルコトナシ

第一小隊　浪速(一)　新高(二)　千代田(三)

第二小隊　高千穗(四)　明石(五)

別働隊　淺間(六)

(四戰機密第三一號)

仁川偵察ニ赴キタル明石、眞鶴ハ稍錨地ニ近ツクニ及ンテ、敵艦「ワリヤーグ」ノ火災ヲ起シ、且「コレーツ」ノ船體見ヘサルヲ確メ、午後五時四十五分之ヲ司令官ニ電報シ、尙敵艦ヲ距ル約四千米突ニ近ツキ、詳細視察ヲ遂ケ歸リ報シテ曰ク、露艦「コレーツ」ハ爆沈シテ全然其ノ船體ヲ認メス、時恰モ低潮時ニ際セシカ、月尾島前ノ砂濱ニ五隻ノ端艇ノ遺棄セラルヽヲ見タリ、「ワリヤーグ」ハ英艦「タルボット」ノ附近ニ碇泊シ、其ノ後部上甲板面及ヒ舷窓ヨリ火焰ヲ吐キ、大ニ左舷ニ傾キ、後部沈降シ、「メーンアツパーヤード」ノ「リフト」切斷セラレテ「ヤード」右舷ニ垂レ、上甲板ニハ絶エテ人影ナキモノヽ如ク、軍艦旗及ヒ艦首旗ハ尙其ノ揭揚位置ニ存セリ、英艦「タルボット」ノ艦尾ニ繫留セル數多ノ端艇アリ、或ハ「ライフボート」ニ使用セラレタルモノナランカ、露國商船「スンガリー」號ハ今尙月尾島燈臺ノ下ニ碇泊セルヲ見ルト、是ニ於テ瓜生司令官ハ大元帥陛下萬歲ノ信號ヲ揚ケ、全艦隊ノ乘員等シク東向シテ祝聲ヲ擧ク、

黃昏ニ及ンテ「ワリヤーグ」ノ火災益猖獗ヲ極メ、「コレーツ」ト其ノ運命ヲ齊シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

クスルニ至ルヘキヲ認メシト雖モ、瓜生司令官ハ尚敵ノ殘兵カ憤激ノ餘リ無謀ナル水雷襲擊等ヲ爲スナキヤヲ慮リ、午後七時三十五分更ニ各艦ヲ戒飭シ、當夜二直哨兵ヲ配シテ艦内外ノ警戒ヲ嚴ニセシメ、且第九艇隊ノ警戒配備ヲ變更シ、同隊司令ニ向ヒ、其ノ艇隊ノ一艇ハヨドルミ附近ニ假泊警戒セヨ、他ノ二艇ハフライイングフ井ッシ水道中適宜ノ場處ニ假泊シテ旅順方面ノ敵ニ對スル警戒ニ任シ、明朝本隊ニ歸ルヘシ、今夜ハ殊ニ警戒ヲ怠ルヘカラスト命令シ、又牙山灣口ニ於ル千早艦長ニ打電シテ、當日ノ戰果ヲ傳ヘ、且ボンテキ附近ニアリテ旅順方面ノ敵ニ對スル警戒ニ當ラシメ、尚第十四艇隊ノ二隻、豐島附近ニ假泊シテ警戒セル旨ヲ通シ、又參謀海軍少佐森山慶三郎ヲ仁川ニ派シ、海軍大臣ニ戰況ヲ概報シ、且同參謀ヲシテ吉田公使館附武官ト協議ノ上、陸軍ニ月尾島ノ露國炭庫ヲ占領スヘキ意見ヲ提出セシメ、陸軍ハ直ニ之ヲ實行セリ、此ノ夜八時露國商船「スンガリー」號ハ自ラ爆發沈沒シ、「ワリヤーグ」モ亦遂ニ覆沒ス、而テ其ノ乘員ハ總テ英、佛、伊ノ軍艦ニ分配收容セラレタリ、

第三目　戰鬪後紀

二月十日天明仁川錨地ヲ望メハ、露艦ノ白煙已ニ散シテ其ノ痕ヲ留メス、各水雷艇隊ハ漸次哨戒地ヨリ歸リテ本隊ニ合ス、乃チ瓜生司令官ハ千鳥、鵲ヲ仁川ニ派シテ港内ヲ偵察セシメ、午前七時三十分他ノ艦艇ヲ率井テ揚錨シ、牙山灣口ニ向フ、同九時二十分新高ヲ列ヨリ離シ、豐島附近ニ派シテ警戒ニ從事セシメ、日沒前本隊ニ歸ルヘキヲ命シ、同十時牙山灣口ニ達シテ投錨ス、春日丸、日光丸、小樽丸、大連丸、平壤丸其ノ他運送船數隻茲ニアリ、

此ノ日曉來無線電信ニヨリ、瓜生司令官ハ曩ニ旅順方面ニ行動セル我カ主戰艦隊ノ戰況ヲ畧知シ得タリト雖モ、未タ詳報ニ接セサリシカ、午後零時三十分各驅逐隊ノ牙山灣ニ入港スルニ及ンテ、始テ旅順方面ニ於ル戰捷ヲ知悉シ、乃チ各艦艇長ヲ集メテ之ヲ傳フ、幾モナクシテ第一、第二、第三戰隊及ヒ其ノ他ノ艦艇悉ク入港シ、互ニ戰勝ヲ祝ス、是ニ於テ瓜生司令官ハ更ニ仁川ノ狀況ヲ確メンカタメ、同二時千代田ニ命シテ同地ニ向ハシメ、尚天候異變ノ兆アリシヲ以テ、夕刻ニ至リテ麾下各艦ニ荒天準備ヲ命シ、第九艇隊ヲ馬

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

山浦口ニ避ケシメ、千早ニ命スルニ港外ノ警戒ヲ以テシ、其ノ他ノ船艇ヲシテ適宜錨地ニ哨戒セシム、

仁川ニ於ル露艦及ヒ其ノ他ノ狀況視察ノ命令ヲ受ケタル千代田ハ、出港ニ際シ、午後二時四十五分東鄕聯合艦隊司令長官ノ旗艦三笠ノ傍ニ至リ、仁川海戰前後ノ狀況、竝ニ今ヨリ同港ニ回艦スヘキヲ述ヘ、同三時五分再航進ヲ起シ、同四時五十五分八尾島ヲ過キ、薄暮仁川錨地ニ達シテ各國軍艦ノ南方ニ碇泊ス、在泊セル外國軍艦ハ從前ノ如ク、英艦「タルボット」、佛艦「パスカル」、伊艦「ユルバ」、米艦「ウイツクスバーグ」、韓艦揚武等ニシテ、一二ノモノハ少シク其ノ錨地ヲ變シタルモノヽ如ク、露艦「ワリヤーグ」ハ艦體横ニ倒レテ前碇泊位置ニ沈沒シ、僅ニ水面上ニ出テ、「コレーツ」及ヒ東清鐵道會社汽船「スンガリー」號モ、亦各國軍艦ノ北東側ニ沈沒シテ、其ノ檣桁及ヒ煙突ノ上部ノミ水面ニ露出セリ、此ノ日西風強ク吹キ、其ノ力四以上ニ達シ、港内波高シト雖モ、尙敗殘ノ露兵外國軍艦ニ分乘スルモノヽ如クナリシヲ以テ、千代田艦長ハ是等ヨリ不測ノ害ヲ蒙ルコトナキヤヲ慮リ、總員ニ警告シ、終宵四直哨兵ヲ配備シテ警戒ヲ嚴ニシ、翌十一日黎明狀況視察ノタメ士官一名ヲ陸上ニ派シ、又一士官ヲシテ在泊外國軍艦ヲ歷訪セシメ、本日ハ紀元節ニ該當スルヲ告ケ、午前八時滿艦飾ヲ行フ例ナリト雖モ、戰時ナルヲ以テ艦飾ニ換ヘ、正午皇禮砲ヲ放タンコトヲ要求セシム、乃チ定刻ニ至リ各艦千代田ニ倣ヒテ艦飾ヲ行フ、村上艦長ハ更ニ視察ノタメ、士官一名及ヒ下士卒若干ヲ沈沒軍艦「ワリヤーグ」ニ遣ス、午前十一時二十分韓國軍艦揚武日本ニ向ヒテ出港シ、同時千早牙山ヨリ入港シ、本日ハ例年ノ通リ正午皇禮砲ヲ發シ、遙拜式ヲ行フヘシトノ瓜生司令官ノ命ヲ傳フ、依テ千代田ハ正午千早ト共ニ皇禮砲ヲ發ス、各國軍艦モ亦之ニ倣フ、午後二時二十五分獨逸軍艦「テチス」入港ス、乃チ直ニ士官ヲ派シテ艦飾ノ理由ヲ述ヘ、速ニ之ヲ行ハンコトヲ要求ス、同三十分千代田艦長ハ、英艦「タルボット」ニ至リテ艦長ベーレー大佐ヲ訪ヒ、露國軍艦ノ受ケタル損害、及ヒ沈沒前後ノ狀況、竝ニ其ノ生存者ノ處分等ニ關シテ聞知スル所アリ、其ノ要領左ノ如シ、

「タルボット」艦長曰ク、日本及ヒ露西亞ハ韓國ヲ以テ中立國ト認メス、米國

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ之ニ關シテ何等宣言スル所ナシト雖モ、英佛伊ノ三國ハ明ニ其ノ中立國ナルヲ承認シ、三國艦長ハ各其ノ司令長官ヨリ之ニ關スル訓令ヲ受領ス、露國軍艦ノ生存者ハ刻下三國軍艦内ニ收容セラレ、余等ハ今ヤ之ニ對シテ甚奇異ナル位置ニアリ、中立國々旗ノ下ニ收容セラレ、武裝ヲ解キタル軍人ニ對シテ、吾人ハ如何ナル處置ヲ取ルヘキカ、余ハ司令長官ニ向ヒ之ニ關スル訓令ヲ仰カントス、或ハ一巡洋艦若クハ商船ヲ當地ニ派遣セラルヘク、余ハ艦内ニ收容セル露國兵員ヲ之ニ移シテ再戰爭ニ從事セサル旨ヲ誓ハシメ、以テ之ヲ露國ノ一港灣ニ派遣スルニ至ルヘシ、

又曰ク、戰鬪後日本軍艦ノ直ニ入港セサリシハ大ニ幸甚ナリキ、是カ爲メ余等中立國ノ軍艦ハ露國乘員ノ處分ニ關シ、充分ノ時間ヲ得タリ、余ハ露國敗兵ノ始末結了スルニ至ルマテ、日本軍艦ノ當港ニ入ルモノ極テ少ナキヲ望ム、又余ハ友人トシテ此ノ際瓜生司令官ノ來港セラレサルヲ可ナリト信ス、唯余ハ好時機ヲ得テ私ニ同司令官ニ會合センコトヲ希フ、

次ニ露艦ノ損害ニ就テ語テ曰ク、「ワリヤーグ」ノ受ケタル彈丸ハ約十發ナルヘク、其ノ一彈ノ如キハ第三烟突ニ命中シテ全ク之ヲ破壞シ、一彈左舷側水線附近ヲ穿貫シテ、一「ストツクホールド」ニ滿水セシメ、又一彈左舷側後部ニ命中シテ大孔ヲ穿チ、船體左舷ニ傾キテ後部沈下ノ原因ヲナセリ、其ノ前甲板附近ニ破裂セル一彈ノ如キハ、兩舷ニ於ル二門ノ六尹砲員中僅ニ一人ヲ殘シテ皆死ニ至ラシメ、又三尹砲一門ノ砲架ヨリ離脱セルモノアリ、後艦橋附近ノ如キハ著シク破壞セラレテ慘狀ヲ呈シ、舵機モ亦損傷ヲ受ケ、退却ノ際人力舵ヲ使用シテ遂ニ八尾島側ノ淺洲ニ坐礁セリ、且火災ヲ起スコト前後五回ニ及ヒ、最後ノモノハ艦長室ノ下ニ起リテ消滅セス、遂ニ此ノ火災ノ爲メニ沈沒スルニ至レリ、「コレーツ」ノ損傷ハ詳ナラス、其ノ戰場ヨリ歸港ノ際ハ火災ヲ見ス、其ノ爆發ノ原因ハ頗ル不明瞭ナリ、或ハ乘員退去ノ際火ヲ點シタルモノニアラサルカ、又「スンガリー」號ハ近距離ニ於テ「コレーツ」號ノ爆發シタル爲メ、其ノ激震ニ依リテ漏水シ、遂ニ覆沒シタルモノナラン、戰死者ハ將校一名、下士卒四十名ニシテ負傷セ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ルモノハ「ワリヤーグ」艦長以下將校四名、下士卒六十名ニ達シ、負傷後死亡セルモノ八名アリ、而テ負傷者ノ多クハ彈片ノ飛散ニ基キ、他ハ少數ノ負傷者ニシテ自己裝藥ノ爆發ニ原因セルモノヽ如シ、而テ目下三國軍艦ニ收容セル露國生存者ハ左ノ如シ、

英艦「タルボット」　三百人　内負傷者二十人
伊艦「ユルバ」　百二十人　内負傷者　十人
佛艦「パスカル」　二百人　内負傷者二十人

千代田艦長ハ午後三時四十分英國軍艦ヲ辭シテ歸艦シ、直ニ出港ノ用意ヲ整ヘ、信號ヲ以テ各艦ニ艦飾及ヒ禮砲施行ノ謝意ヲ陳ヘ、同四時拔錨南下シテ牙山灣口ニ近ツクヤ、第一、第三戰隊及ヒ驅逐隊ノ一部出港スルニ遇ヒ、同五時四十分之ニ近ツキテ先ツ千歳ニ向ヒ、駐韓露國公使ノ明日京城ヲ引上ケ、佛艦「パスカル」ニテ芝罘ニ赴ク旨、及ヒ聯合艦隊ノ旅順攻擊ニ關スル東京發外國電報等、仁川陸上ニ於テ得タル情報ノ大略ヲ述ヘ、且仁川海戰ニ於ル露國死傷者ノ員數等ヲ信號ス、同六時十分更ニ三笠ニ近ツキ、聯合艦隊司令長官ニ向ヒ、情報ハ千早ヨリ聞カレタシ、委細ハ瓜生司令官ニ申置ク、同司令官ノ命令アリ、次第一時歸朝スル豫定ナリト信號ス、偶夜ニ入リテ浪速ノ所在ヲ詳ニセス、依テ同五十分豐島ノ北東方ニ至リテ假泊シ、四直哨兵ヲ配シテ警戒ス、翌朝假泊地ニ於テ浪速ノ仁川ニ向フニ會シ、村上艦長ハ直ニ浪速ニ到リ、瓜生司令官ニ前揭ノ諸情報ヲ報告シ、又同司令官ヨリ便宜佐世保ニ回航シ、未タ盡サヽル臨戰準備ヲ完成シテ固有ノ隊ニ復歸スヘキ訓令ヲ受ケ、即日出港セントスルモ、天候險惡ノ爲メ果サス、翌十三日山城丸ト共ニ牙山灣ヲ發シテ、翌十四日午前九時八口浦ニ寄港シ、艦長ハ旗艦三笠ニ至リ、聯合艦隊司令長官ニ向ヒテ精シク仁川海戰前後ノ情況ヲ述ヘ、午後八口浦ヲ出テヽ、十五日午前佐世保ニ入リ、直ニ臨戰準備ニ著手セリ、是ヨリ先キ瓜生司令官ハ海軍大臣ニ向ヒ、仁川海戰前後ニ於ル中立國軍艦トノ交渉ハ、他日外交問題ニ移サルヘク、今般一切ノ關係文書ヲ携ヘ歸朝セル千代田艦長ヲ招致シテ、詳細聞知セラレンコトヲ希望スト電報セシヲ以テ、爰ニ同艦長ハ大本營ノ命ニ依リ上京シ、戰況ヲ上奏セリ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十二日第二艦隊司令官海軍少將瓜生外吉ニ左ノ勅語ヲ賜フ、

聯合艦隊第四戰隊ハ陸軍ヲ擁護シ仁川上陸ノ任務ヲ全フシ加フルニ敵艦ヲ港外ニ擊破シ終ニ之ヲシテ殲滅セシムルニ至ル朕深ク之ヲ嘉賞ス

十三日瓜生司令官ハ左ノ奉答文ヲ捧ク、

臣外吉

謹テ奏ス

陛下ノ御稜威ニ依リ、陸軍ヲ擁護シ仁川上陸ノ任務ヲ完クシ、敵艦ヲ港外ニ擊破シタルニ對シ、優渥ナル勅語ヲ下シ賜ハリ、臣等感激ノ至リニ堪ヘス、臣外吉麾下將卒ト共ニ益〻奮勵聖恩ノ篤キニ報イ奉ランコトヲ期ス、臣外吉誠恐謹テ奉答ス、

第四目　敗殘露兵ノ處分

瓜生司令官ハ曩ニ沈沒セル露國艦船ノ監視ヲ、加藤仁川領事ニ託セシト雖モ、敗殘ノ露兵今尚列國軍艦ニ配乘セラルヽヲ以テ、愈〻之カ監視ノ忽ニスヘカラサルヲ感シ、二月十三日午前大島ヲ仁川ニ派遣シテ專ラ此等ノ任務ニ當ラシメ、又日々水雷艇一隻ヲ派シテ、牙山、仁川間ノ通信連絡ヲ保タシム

是ヨリ先キ林駐韓公使ハ、韓國駐箚佛國代理公使コリン、ド、プランシート協議シテ、二月十二日露國公使パブロフヲ京城ヨリ撤退セシメ、館員及ヒ護衛兵ヲ率ヰテ十三日佛國軍艦「パスカル」ニ乘組ミ、芝罘若クハ上海ニ退去セシムルコトヲ決定シ、「パスカル」ヲシテ海上何等ノ故障ナク、目的地ニ達セシメンカ爲メ、海軍大臣ヲ經テ聯合艦隊司令長官ニ其ノ配慮ヲ請求シ、是ト同時ニ同艦ヲ出港セシムヘキ時日ヲ問ヒ、尚露國公使ニハ此ノ航海ニ關シテ同司令長官ニ宛テタル依賴狀ヲ與フ、是ニ於テ聯合艦隊司令長官ハ瓜生司令官ヲ經テ、佛國軍艦ノ出港ハ何時ニテモ差支ナキ旨ヲ林公使ニ回答ス、而テ沈沒露艦ノ生存者ニ關シテハ、同公使ヨリ各國公使、各國艦長及ヒ瓜生司令官等ニ協議スル所アリ、遂ニ帝國政府ノ承認ヲ經、之ヲシテ交戰中上海以北ニ來ルコトナク、又再此ノ戰役ニ從事セサル旨ヲ誓ハシメ、以テ上海以南ニ送致スルニ決シ、林公使ハ各國公使ニ向ヒテ速ニ之カ處分ヲ爲サンコトヲ請求ス、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

是ニ於テ英國軍艦「アンフアイトライト」ハ、二月十九日仁川ニ入港シテ「タルボット」ニ收容セル「ワリヤーグ」ノ副長以下乘員二百七十五名及ヒ「スンガリー」號乘組員五十三名ヲ載セ、二十日出港シテ新嘉坡ニ向ヒ、伊艦「ヱルバ」ハ其ノ收容セル「ワリヤーグ」ノ乘員士官七名、下士卒百七十四名ヲ乘セ、二十五日香港ニ向ヒテ仁川ヲ出ツ、佛國モ亦帝國政府ノ希望ニ依リ、「パスカル」ニ收容セシ露兵受領ノタメ、當時長崎ニ碇泊セル同國軍艦「ゲードン」ヲ仁川ニ回航セシムヘキ豫定ナリシモ果サス、

是ニ於テ「パスカル」ヲシテ其ノ收容セル「ワリヤーグ」ノ生存者士官八名、下士卒三十九名、「コレーツ」ノ乘員士官九名、下士卒百六十名ト共ニ露國公使一行、及ヒ其ノ護衛兵七十名ヲ乘セ、二月十六日仁川ヲ出港シ、先ツ上海ニ至リテ公使ノ一行及ヒ護衛兵ヲ上陸セシメ、後露兵ヲ柴棍ニ送致セシム、而テ此ノ際「パスカル」ニアリシ重傷患者ナル露國下士卒二十四名ハ、期ニ後レス治療ヲ施スノ必要アリ、英國公使ジヨルダンヲ經テ之カ救濟ヲ林公使ニ請ヒ來リシヲ以テ、二月十三日仁川赤十字支社病院ニ移シテ、加療スルニ至レリ、

瓜生司令官ハ此等傷兵慰問ノ爲メ、二月十五日浪速軍醫長海軍大軍醫山本英忠ヲ仁川ニ派遣シテ物品ヲ贈與シ、且言ハシメテ曰ク、大日本帝國艦隊司令官瓜生海軍少將ハ、今回露國軍艦乘員ノ各其ノ祖國ノ爲メニ盡瘁セル忠誠ニ感シ、其ノ戰傷者ニ對シテ眞ニ哀悼ノ念禁スル能ハス、茲ニ山本海軍大軍醫ヲシテ慰問セシム、希クハ各自悠々意ヲ安シテ傷痍ヲ治療シ、平和克復ノ後、隣邦ノ善良ナル國民トシテ、早ク泰平ノ福祉ヲ享ケラルヽニ至ランコトヲト、後二月二十八日ニ至リ、重傷水兵一名死シ、三月三日又一名歿シ、殘員二十二名ハ三月八日赤十字社病院船博愛丸ヲ以テ、松山赤十字病院ニ轉送セラレタリ、此ノ患者ハ一旦「パスカル」ニ收容セラレタルヲ、後露國公使ノ請求ニヨリテ赤十字病院ニ移シタルモノナルカ故ニ、普通ノ俘虜ニ準シテ取扱フヲ得ス、是ヲ以テ後日其ノ全治セルモノハ日露交戰中再軍役ニ從事セサル旨ヲ宣誓セシメ、帝國駐箚佛國公使ヲ經テ本國ニ歸還セシメタリ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/